

都留文科大学報

第125号
2014年
7月15日(火)

編集 都留文科大学広報委員会

〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1 都留文科大学内
☎0554-43-4341 URL: <http://www.tsuru.ac.jp/>



平成25年度卒業式を終えて



学生表彰受賞者



第45回つる子どもまつり



名誉教授称号授与

都留文科大学入学式 2

新入生の言葉 社会学科 荻窪隆平
比較文化学科 田村涼香
学長より新入生を迎える言葉

特集 学長就任にあたって 6

学長就任にあたって 福田誠治学長

特集 教職支援センター開設 8

教職支援センター新設について

英文学科創設50周年 10

英文学科創設50周年記念講演・式典

新教員紹介 文大に着任するにあたって 11

初等教育学科 堤 英俊講師
国文学科 加藤浩司教授
国文学科 菊池有希講師
英文学科 加藤めぐみ准教授
教職支援センター 上原明子講師
教職支援センター 金山光一特任教授
教職支援センター 亀田孝夫特任講師

学外研究報告 18

国文学科 古川裕佳教授

オンデマンドプリンターについて 19

オンデマンドプリンター稼働中

昨年度の就職状況を振り返る 20

キャリア支援センター長 新保祐司教授

「学生による授業アンケート」の結果から 22

FD委員会委員長 平野耕一教授

文大だより 24

卒業式の様子
平成25年度卒業生・修了者数及び平成26年度入学試験状況
学生表彰制度による表彰
成績優秀者表彰式
フィールドミュージアム通信
地域交流センター・ミュージアム都留『写真が伝える都留の思い出』
つる子どもまつり開催
オープンキャンパス情報
模擬面接試験体験会
就職支援パートナーシップ制度について
第6回つる白熱教室
都留文科大学ラッピングバス出発式
名誉教授の称号授与 稲垣孝博先生、森 博俊先生、
畑 潤先生

人事異動・訂正文

編集後記

本 ぶんだい堂



都留文科大学入学式

今年の入学者は 812 名

4月5日(土)、都の杜うぐいすホールにおいて、平成26年度都留文科大学入学式を開催いたしました。

式典は、おもに学科別に2部制とし、午前10時から行われた第一部では、初等教育学科・社会学科・大学院・専攻科・編入生(初等教育学科・社会学科)、午後1時30分から行われた第二部では、国文学科・英文科・比較文化学科・編入生(国文学科・英文学科・比較文化学科)を対象に行われました。

入学者の内訳は、初等教育学科212名、国文学科140名、英文学科125名、社会学科現代社会専攻96名、同学科環境・コミュニティ創造専攻58名、比較文化学科138名、文学専攻科5名、大学院文学研究科20名、学部3年次編入18名であり、合わせて812名の入学が認証されました。

式典には国会・県会・市議会議員をはじめ、県・市職の方々など多数の来賓にご臨席賜り、また会場の大ホールは、入学者およびその保護者でほぼ満員となりました。会場外には中継モニターが設けられ、式典の様子を伝えました。

式は本学大谷哲夫理事長の挨拶から始まり、福田誠治新学長による入学認証、および新入生を迎える言葉、続いて堀内富久都留市長、谷垣喜一都留市議会議長、宮下洋一都留文科大学後援会長より祝辞を頂戴いたしました。

そして新入生を代表して、第一部では社会学科の荻窪隆平さんが、第二部では比較文化学科の田村涼香さんがそれぞれの決意を述べられました。

最後には、吉田悟氏の指揮による本学管弦楽団の演奏にのせて、本学合唱団とともに学生歌「花のかげ」を全員で合唱し、式典は終了いたしました。

当日は、都留市全体が柔らかな春の陽光に包まれ、新入生を温かく迎えました。



新入生の言葉



社会学科
現代社会専攻 萩窪隆平

やわらかな陽射しの降り注ぐ季節を迎え、春の息吹が感じられるこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式を迎えられ、大変嬉しく思います。これも、母校の先生方の熱心な指導や家族の愛情、友人たちの励ましなど、多くの方々の支えのおかげです。皆さんの思いをしっかりと心に留め、4年間の大学生活を実り多く、掛け替えのないものにすべく、日々精進して参ります。

3年前、東日本は大震災に見舞われ、数多くの尊い命が奪われました。今も尚、大きな爪痕が残る土地で、辛い状況の中、前向きに復興を目指す人々がいます。その粘り強い姿は、私たちに生きる勇気を与えてくれました。

また、一昨年夏には、都留文科大学の先輩、山本美香さんが、遠いシリアの地で亡くなりました。自ら戦地に足を踏み入れ、弱い立場の子供や女性の姿を伝え続けてくれました。平和な日本しか知らない私たちは、命を繋ぐのさえ厳しい世界があることや、今、当然のように平和な生活を送ることができるありがたさを、改めて深く心に刻みました。

そして、この3月には、かつてない大雪を体験しました。交通機関は麻痺し、物流も途絶え、山梨は陸の孤島と化しました。今自分に何ができるのか、どう行動すべきか、戸惑いながら考えました。その時、気づかされた

のは、人と人の繋がりでした。日頃から助け合い、支え合うことがどれだけ大切なことか、噛みしめる機会となりました。

私たちの生きる現代社会は、一見豊かで便利に感じられても、グローバル化や情報化は新たな格差を生み出し、若者の就職難、少子高齢化、環境や福祉など、さまざまな問題が山積しています。

このような混沌とした時代に、私たちは不安を抱えながらも、立ち向かっていかなければなりません。現実の厳しさから逃げ出したいこともあります。しかし、被災地の方々からもらった勇気、山本さんが教えてくれた平和な日常への感謝、そして大雪から学んだ人と人の繋がりの大切さを胸に、ここにいる仲間とともに、今から始まる大学生活の中で、社会の変化にしなやかに対応できる知識と教養を身につけ、課題を解決する力を培っていきたいと思います。

私たちに夢があります。希望があります。全国から学生が集まる、この都留文科大学の恵まれた環境で、新たな未知なる世界に一步を踏み出し、多くのことを経験し、学び、そして、自分の世界を豊かに広げていきたいと思っています。勉学に励むことは勿論、部活動やサークル活動にも積極的に参加し、豊かな人間性を育てていきたいと考えています。

歴史ある都留文科大学の学生として恥じることもないよう、また、社会に貢献できるよう、自信と誇りを持って歩みを進め、一日一日を大切に過ごすことを決意し、新入生のことばといたします。



比較文化学科 田村涼香

暖かな春の日差しに誘われて、桜もほころび始めたこの佳き日、伝統ある都留文科大学の入学式に臨むことができ、大変光栄に思います。これも母校の先生方のご指導をはじめ、家族や友人、そして地域の方々の支えが合ったからです。今日からの4年間という限られた時間の中で、仲間と共に学び、切磋琢磨しながら日々精進して参ります。

高校入学直前に起こった、大震災により、東日本を中心に壊滅的な被害を受け、東北の地で多くの尊い命が失われました。いつ来るか分からない余震に怯えながら過ごす日々の中で、それまで当たり前だった生活が困難になり、日頃の当たり前なことが、どんなにありがたいことかを痛感しました。そして、被災し、傷ついた多くの方々、その後地域の復興のため、前向きに取り組む姿は、私たちに辛い状況でもあきらめない強さを教えてくれました。

高校卒業間近には、明治以来と言われた記録的大雪に見舞われました。ここ都留市も甚大な被害を受け、交通機関が機能せず、寒い夜を車の中で過ごす人や、自宅に

何日も帰れない人も多く見られました。山梨は孤立し、食糧も十分に手に入らないという状況で、人と助け合うことの大切さ、協力して困難を乗り越えることの大切さを、改めて実感させられました。

広く社会に目を転じてみると、まだまだ続く不況による就職難や、少子高齢化、福祉の問題など、私たちの未来には乗り越えていかなければならない課題がたくさんあります。

しかし、震災や大雪などから学んだ経験を胸に、現実の厳しさから決して目を背けず、今後の日本を背負ってゆく立場として、問題解決のための努力を重ねたいと思います。そして、これからの4年間という時間の中で、厳しい社会に通用する教養と能力を身につけ、目標を持って学んでいきたいと思っています。

また、勉学と共に、部活動やサークル活動などを通じて、たくさんの人々と交流を深め、多くの仲間と過ごす日々の中で、協力し信頼することの大切さを学び、豊かな人間性を育みたいと思います。

私たちは、多くの方々に支えられ、熱意あふれる先生方に教えていただき、多くの仲間と共に学び合い磨き合う機会を得ることができました。その機会を生かし、この伝統ある都留文科大学で学べることに感謝し、日々成長することをここに誓い、新入生のことばといたします。

式辞（新入生を迎える言葉）

都留文科大学学長 福田誠治

この度、晴れて都留文科大学に入学なさった皆さん、おめでとうございます。この良き日に、都留文科大学の教員と職員を代表して、お祝い申し上げます。また、この日を待ちわびていらっしやうご家族の皆様にも、心よりお慶び申し上げます。家族の期待を担ってきたお子さんたちも、きっと感謝の思いを持っているものと推測いたします。今から、新入生の皆さんに大学で学ぶ心構えのようなものをお話しいたしますが、ご家族の皆様にも今後ともご協力いただき、学びの支援ができれば幸いに思います。

今日お話しすることは、人間の学びとはどういうものかということです。Learning: The Treasure Within という UNESCO（ユネスコ）の報告書が、20年ほど前に出されています。この日本語訳は、『学習：秘められた宝』となっています。自ら学ぶことこそが、本物の成果を生むという意味です。

この報告書は、ジャック・ドローを委員長とする21世紀教育国際委員会が3年かけてまとめられ、1996年に UNESCO 事務総長に提出されました。この報告書のタイトルは、ラ・フォンテーヌの寓話『農夫とその子どもたち』に由来しています。イソップ寓話としても知られているのですが、その話は次のようです。

ある農夫には働きたがらない3人の子どもがいました。そこで、その農夫は亡くなる間際に、畑に宝物が隠してあるから収穫

を終えたら深く掘り起こしてみよと言いつ残します。子どもたちは言いつけ通りに、畑の隅々を深く掘り返しましたがいっこうに宝物は見つかりません。しかし、翌年の収穫は大豊作に恵まれたということです。つまり、畑がよく耕されたので、今までにない収穫を得たというわけです。

UNESCO の報告書では、「父親は、学習こそ宝であることを教えた」のだと言っています。むしろ、自らのうちにある学習こそ宝だと言い換えた方がよいかもしれません。

この報告書では、学習の4本柱として「知ることを学ぶ (learning to know)」「為すことを学ぶ (learning to do)」「共に生きることを学ぶ (learning to live together)」「人間として生きることを学ぶ (learning to be)」を提起し、グローバル化、テクノロジー、知識基盤経済の時代に相応する新しい学力像をうち出しました。この、to be とは、われわれ文化を異にする者にとっては理解しがたいのですが、欧米の人にはハムレットの苦悩 to be, or not to be として知られています。小田島雄志（おだしま ゆうし）氏は「このままでいいのか、いけないのか、それが問題だ」と訳しています。

UNESCO は、自分の将来を問い続けながら、そのためにこそ学べと言ったのでしょう。外からの成果を待つのではなく、自らの努力で成果は作り出されるものだという教訓です。学習



学長 福田誠治

とは、自分自身にある潜在的な能力を掘り起こすことで、その潜在的な能力を「秘められた宝」と表現したわけです。人間の能力は外からの借りものではなく、自らを耕し、それが血となり肉となり、自分自身を作り出すものだということです。与えられたメニューを消費することではなく、自分を生産するということです。この Learning to be は、1972年のエドガー・フォール報告書以来、UNESCO の基本方針となっています。そのフォールは、フランスの教育大臣を務めたのですが、教育の鍵は「学び方を学ぶこと (learning how to learn)」だという確信を持っていました。

もう一方のジャック・ドローは、ミッテラン政権で大蔵大臣を務めた経済学者ですが、その後は11年にわたって欧州委員会の委員長となり、EUを成立させ、若者の失業問題に取り組み、生涯学習社会の普及に努め、1996年を「欧州生涯学習年」と決めました。さらに、OECD(経済協力開発機構)もまた、この年に『万人のための生涯学習 (Lifelong Learning for All)』を刊行して、共同歩調を取り始めます。UNESCO

と EU と OECD が、1996 年に生涯学習という教育政策で見事に一致するのです。

かつての職業は、農民の子どもが農業を引き継ぐように、何世代も変化しませんでした。近代社会になると、職業は自由に選べるようになり、一生に一度、学歴とか免許など専門資格を手に入れて社会に出ていきました。ところが現代になると、職業専門の変化が急速で、古い職業は廃れ、新しい職業が生まれ、一生に 2 度 3 度と転職するようになっていきます。このような時代には、生涯にわたって「学ぶ力」「学び続ける力」が重要な能力になってきます。最終学歴もどこなのか定めようもないわけです。

さて、OECD は、知識に関して構成主義の立場をとっています。知識とは、知ろうとする個人が、意欲や意図を持って調べ・探究し、どうしてそうなるのかを比較考察し、論理を組み立て、よくよく考え (reflection)、友人と話し合ったり、実験したり、使ったりして確かめ、なるほどと納得したことがその人の知識になるということです。他人の作った知識を覚えるだけでは、中味が付いていけないということです。また、OECD は、最近は大學生に対し「学士力」という評価基準を打ち出してきました。たくさんの知識を正確に覚えたり、計算や英会話の技能を早く正確に繰り返すことではなく、知識をつないでどう使うか、英語で誰に向かって何を言うか、その言い方が適切かということの方が重視されるということです。

ヨーロッパでは、大学入試にあたる中等教育修了資格試験

は、1 科目に 5 時間ほどのテスト時間をかけます。考える力を見るためです。OECD は、義務教育を終える段階にあたる 15 歳の若者を対象に、2000 年から国際学力調査 PISA(ピザ)を開始しました。これまでのテストでは「今まで何を学んだか」を測っていたけれども、PISA は「これから何ができるか」を測ろうとするテストだと OECD は説明しています。つまり、学び続ける力を測ろうというわけです。また、2012 年からは国際成人力調査 (PIAAC) を開始しました。

このように、今や学力は国境を越え、労働者も国境を越えていく時代になりました。TOEFL や TOEIC という英語テストも大学に入ってきており、高校では国際バカロレアのカリキュラムが認められるようになりました。学習指導要領の国家独占が崩れ、日本の教育はガラバゴスからグローバルへと舵が切れつつあります。

労働者が国境を越える動きは、すでに 1957 年のローマ条約に規定されていたのですが、この 4 半世紀のヨーロッパの変化はめざましいものです。通貨ユーロや各製品の共通規格 CE の導入、そしてシェンゲン条約は国境の壁を取り払いつつあります。条約国間では入国管理が撤廃され、ヨーロッパの空港では国内便と国際便が混在する状態になっています。

そのヨーロッパは、1999 年にボローニャ宣言を発し、2006 年あたりからボローニャ・プロセスという新しいグローバルな大学制度に切り替わりつつあります。大学の授業は欧州共通単位 (ECTS) で評価され、

何語で受けても、どの国でも通用するようになっていきます。しかも、このボローニャ・プロセスには、日本のすぐ隣のロシア連邦も参加しています。

このように、世界は大きく変化しています。10 年、20 年の単位で考えれば、日本へ外国人労働者がもっと自由にやって来て、日本人もまた世界に働きに出ていくことになるでしょう。そのためには、皆さんは、自ら学ぶ姿勢をこの大学で徹底し、一生涯学び続ける力を養っていただきたいと思います。都留文科大学は、皆さんの主体的な学びを支援し、自立する人間として育てることを心がけたいと思います。

以下本学の取り組みの一部ですが、学習条件を確保するため、授業料免除枠をこの 4 月から倍増します。また、次のような新たな制度を設けました。新入生のうち 70 名にはスタートアップ資金を、在学生の成績優秀者へは奨学金を、また本学の協定校への留学には留学生奨学金を、さらにマイプランの海外探究型学習に遊学奨励金というユニークなものも新設しました。ぜひ、チャレンジし、4 年間を実り多いものにして下さい。

皆さんには、都会の喧噪から一定の距離をおき、世界遺産の富士山の近くで世界から訪れる旅行者の姿を見ながら、友人と支え合い、先生や諸先輩と人間としての距離で接し、その上で、自らを耕し、グローバルに考え、地域に生きる力を養って欲しいと思います。



特集

学長就任にあたって

都留文科大学学長 福田 誠 治

60周年を迎える大学

都留文科大学は、2015年には創立60周年を迎えます。これは短期大学設立から数えるのですが、臨時教員養成所から数えれば62年となります。以来、本学は教員養成の大学として社会的に評価され、日本中から学生が集まってきました。

始まりの頃は大家さんの家に間借り、次は長屋形式のアパートでした。トイレと炊事場と風呂が共同で、電話に近い部屋の住人が電話番号をしたり、都留方式と言って風呂を沸かした者が最初に入ってから名札順に鍵を回すとか、要するに共同生活がありました。ところが、今は、鉄の扉一つで外の世界と隔離されるワンルーム・マンションです。大家さんは市外の人で見たこともなく、不動産屋が管理しています。それでもまだ都留は、人付き合いが濃い学生町です。豊かな自然と人間関係の中で、ある種ゆったりした時間を学生たちは過ごしています。



特急列車の中で、いつでもどこでも本の読み語り

私の研究

私は40年間、ソビエト・ロシアの教育について研究してきました。国の隅々まで分け隔てなく教育を普及させたことと、すべての教育に男女差をいち早く解消したことは、日本にいと当然のように思えますが、歴史的には注目すべきことです。しかも、たとえイスラム教徒でもベールをかぶらず、ミニスカートで歩いているというのですから、社会主義70年の歴史の存在は大きなものです。東はサハリン、ハバロフスク、北はサハ=ヤクーチア、南はウクライナとモルドヴァ、ウズベク、キルギス、カザフ、西はエストニアまで現地調査もしました。

留学は英国バーミンガム大学だったこともあり、英語圏とのつながりで、本学のフィールドワークには、英国の湖水地方や、カナダのプリンスエドワード島にも出かけました。

この10年は、フィンランドの教育を中心テーマにして、EUとOECDの教育政策を研究しています。写真は、フィンランドの様子で、私が撮影したものです。特急列車の中の親子は、ほほえましいので許可を得て撮らせてもらいました。フィンランドでは、こんな小さい子にまでとびっくりする年齢から、いつでもどこでも本の「読み語り（読み聞かせ）」をしています。子どもが小学生のうち



小学校の休み時間、全員外に出される

は、毎晩、寝る前に親が本を読んでもくれます。

冬の間、外は寒くて暗いのですが、それでも休み時間は子どもたちは校舎の外に出されます。もう一枚の写真はその様子で、3月末なので陽射しが強くなっていますが、それでも校庭には雪がたくさん残っていました。

最後の一枚は、全校生徒100人程度の小規模校の工作室です。フィンランドでは物作りとデザインが重視され、日本の図工のような授業が小学1年生からあります。小学生でもグラインダーを使う金属加工もします。どこの学校にも、電気の焼き釜があります。写真の学校は、小学4年生のクラスの半分が授業を受けている様子ですが、危険を顧みず本物の工具を使っています。こうして、義務教育の間に、紙、布、木、金属の加工を体験します。

北欧諸国は、1991年には教科書検定を廃止しました。教科書はあるのですがそれは一つの教材に過ぎず、教科書に書いてあることを教えなくてもよく、教科書以上



図工教室、小学生でも工具は本物

のことを教えてもよいというのです。というわけで、フィンランドでは、義務教育の間は、他人と比べるテストはありません。勉強は学校の授業のみで、学習塾はありません。夏休みは、70日あり、宿題は1日、2日でできる簡単なもののみです。

こんな場合、教師の仕事は、人生に必要な知識や技能を選択して上手に配置し、目の前にいる子どもたちに合うように最善の教材を用意し、一人ひとりの子どもたちの学びを支援することです。その専門性が「ペダゴジー（教育学）」と呼ばれています。先進国の教育は、子ども自らが学び、教師はそれを支援するという活動型に変化してい

るわけです。

これからの都留文科大学

10年、20年といった単位で考えれば、教師もまた国境を越えて働くようになっていくと思います。その場合、国民を育てるという教育目標は自立した個人を育てるというものになるでしょう。日本の学習指導要領も多様化され、教材や教科書は教師自身が選択したり作成したりすることが当たり前になり、多様な人間を育てられるだけの幅広い教養が教師には必要になってくるでしょう。日本の職場でも英語が使われ、外国人教師が公立学校にも入ってくることで、本学の卒業生たちも、

日本だけでなく諸外国に働きに出かけることでしょう。

日本人は、勤勉さとともにシステムを動かすチームワークの力が培われています。その力は、グローバルに労働者が展開する時代には貴重な能力となるでしょう。

そのためには、本学の伝統を生かし、都留という人間関係の濃密な地域で、「教員養成」と「グローバルズム」と「地域の人材」をミックスさせ、世界的視野と教養を持ちながら、協同する力を携え、外国も含めて地域で活躍する人間が育つ、そんな大学運営をしていきたいと思っています。

福田誠治学長プロフィール

1950 (昭和 25) 年 3 月	岐阜県生まれ
1974 (昭和 49) 年 3 月	東京大学教養学部教養学科卒業
1979 (昭和 54) 年 3 月	同大学院教育学研究科博士課程 (教育学専攻) 単位取得満期退学
1979 (昭和 54) 年 4 月	都留文科大学文学部初等教育学科専任講師 (西洋教育史担当)
1982 (昭和 57) 年 10 月	同初等教育学科助教授 (教育原理担当)
1989 (平成 元) 年 10 月	同初等教育学科教授
1993 (平成 5) 年 4 月	同比較文化学科教授 (比較文化論担当)
2009 (平成 21) 年 4 月	都留文科大学副学長
2014 (平成 26) 年 4 月	都留文科大学学長就任

< 著書 >



『競争やめたら学力世界一』
(朝日新聞社、2006年)



『フィンランドは教師の育て方がすごい』
(垂紀書房、2009年)



『こうすれば日本も学力世界一』
(朝日新聞出版、2011年)

特集

教職支援センター開設

— 現場で輝ける教員の養成に向けて —

教職支援センター長 田中昌弥

採用試験対策の先を見すえて

学校教員は、成長する子どもと共に日々を生きることができる、働き甲斐のある仕事です。また、近年の雇用不安の中で、安定した職業としての人気も高まっており、教員養成に参入する私立大学も増えました。結果として各大学が教員採用試験の合格率を競う状況も生じています。

もちろん、採用試験に合格することは正規の教員になるための必須条件であり、その

ための準備はとても大切です。本学では、キャリア支援センターが中心となり、全国と同窓会の協力も得ながら、学生それぞれが受験する地域に対応する態勢をとっているため積極的に活用してほしいと思います。

でも、もう一方で認識しておかなければならないのは、学校現場や子どもの状況が厳しさを増し、採用試験の合格だけを視野に入れた勉強では、現場に出た時にとても通用しないということです。本学の教育は、もともと採用試験対策にとどまらない、教職

の本質を重視した内容になっており、卒業生の活躍は、全国の教育界で定評のあるところですが、しかし、それに安住することなく、複雑化した今日の教育状況に対応できる教員養成を充実させるため、この4月から教職支援センターを新設しました。

自らを育て続けられる教員に

近年、学校教員が突き当たる壁が大きく二つ生じています。一つは、採用された時に、それまで大学で学んできたことと学校の現実とをうまくつなげられないという問題です。今の学校現場では、新卒の教員にも即戦力であることが求められるため、潜在的な資質が高い若手でも、それを発揮する間もなく困難に陥る場合があります、早期離職の増加につながっています。もう一つの壁は、教育状況の変化が激しくなったため、自分の経験に頼るだけでは、ベテランでも通用しなくなったという問題です。一つ目の壁を意識



第6回教師力養成講座より（保護者と子どものことについて語る）

教職支援センター開設

するあまり、学生を即戦力に仕立てる方向に偏ることも、状況が変わるとすぐに行き詰る教員を生み出すことにつながります。

教職支援センターは、全国の教員養成が突き当たっているこのような状況を視野に入れ、自ら理論と実践とを反省的に往還させながら、力量を向上させ続けられる教員へと学生を育てることを目標とし、本学入学から卒業後までを見通した支援体制を作っていきます。

都留市との連携を 基盤にした教員養成

このような観点に基づき、センターでは、学内外の知恵を集めながら方針を構想しているところですが、すでに教員養成カリキュラムの改革に向けた研究、教職実践演習を中心としたSAT活動の充実、教育実習への支援、卒業生支援などに取り掛かっています。

例えば、教職を希望する4年生が大学での学習の総まとめを行い、現場に出る準備として履修する「教職実践演習」（学校参加型）では、これまでも毎週の学校現場体験（SAT）とその振り返りの授業を行ってきましたが、今年度からは、センター担当分として、都留市内の学校現場の先生方や保護者の方をゲストに招いた授業と、希望者が受講できるオプション講座を



教職支援センター専属教員（左から金山先生、亀田先生、上原先生）

追加し、さらにセンター特任教員が各学校を巡回指導するなど、内容を大幅に強化しました。

SATを実施している大学は他にもありますが、市全体でSATを受け入れ、市内各学校の教員や保護者の方々が数多く大学に来訪し、小グループで学生を指導したり、教員になった時に課題となる保護者との意思疎通のあり方を一緒に考えてくださったりする授業は、都留文科大学ならではのものです。本学は、地域との連携を基盤とする教員養成を特長としてきましたが、センターの開設を機に、それを新たな段階に深化させ、学生が、大学で学んだ理論を現実において運用し、反省的に捉えなおし、その過程を通して、頭で覚えるだけでなく、体で身につける教員養成を実現していきます。

センターを訪ねてください

センター専属の教員も新規に着任しました。次期学習指導要領で大幅な強化が見込まれる小学校英語の専門家である上原（かんばる）明子専任講師、本学の多くの卒業生が教員として活躍している相模原市の小中学校校長会長や、相模川自然の村野外体験教室所長を務められ、総合学習の教材開発をライフワークとしている金山光一特任教授、そして、都留市小中学校校長会の前会長として都留市の学校現場の状況を知悉し、本学の同窓会長でもある亀田孝夫特任講師です。

本部棟 426 研究室がセンターのスペースです。火曜日から金曜日まで、特任の先生方が教職に関する様々な相談に乗ってくださいますので遠慮なく訪ねてみてください。

英文学科創設50周年記念講演・式典

都留文科大学文学部英文学科は、1953年に山梨県立臨時教員養成所として始まり、都留市立都留短期大学の時代を経て、1960年4月に4年制の都留文科大学となった本学の3番目の学科として、1963年4月1日に創設されました。そして2013年に創設50周年を迎えることができました。そこで、2014年3月15日に、創設50周年記念行事を行いました。

式典は、2号館101教室にて、15時から実行委員長の儀部直樹教授司会のもと執り行われました。竹島達也学科長からの挨拶にはじまり、福田誠治副学長(当時)、同窓会長の亀田孝夫氏からご祝辞を頂いたあと、今井隆教授から記念論集の紹介がありました。その後、加藤祐三学長(当時)から記念講演として、「黒船来航と洋学」という演題で、1時間ほどお話し頂きました(司会・講師紹介は中地幸教授)。16時30分からは、1号館215教室に移動し、鷲直仁教授の司会による祝賀パーティーが開かれました。英文学科の学生紹介をした後、前同窓会会長の千野文雄氏による祝辞、前々同窓会会長の小林孝次氏による乾杯を頂き、歓談は18時まで和やかに続けました。



祝賀パーティー

私は主にパーティーの手伝いとして、50周年記念の行事に携わることができました。当日、会場への誘導係をしていたとき、まるで知らない世界に来たかのように辺りを見回している方、校舎の写真を撮るのに夢中になっている方を多く見かけました。話を伺ってみると、大学のあまりの変わりように驚いているということでした。しかし、たとえ大学が変わっていようと、この都留文科大学が好きだという気持ちは、どの方にも変わりないのだと感じました。そのような素敵な卒業生たちと一緒に食事をして、会話を楽しみ、とても貴重な時間を過ごす

ことができました。日本全国から学生が集まるこの大学では、卒業後、離れ離れになることも珍しくはありません。そのような中、学生時代の友人や先生と何十年かぶりに再会し、嬉しそうな表情をされていた卒業生の方々を見て、この大学は素敵な大学だと、改めて思いました。

(英文学科3年 相澤雄介)

私は受付係として参加させていただきました。受付の仕事をしていると、私の大先輩にあたる卒業生の方々が何人も、後輩である私にお声をかけてくださり、その中で多くの方がおっしゃっていたのは、「都留に来たのは、卒業してから初めて」ということでした。微笑みながらそのように説明してくださる先輩方を目の前に、私が強く感じたのは、先輩方は都留文科大学での「かけがえのない

思い出」をお持ちであるということです。式典の会場において、長い年月を経て同級生の方や恩師の先生方と再会を果たされ、思い出話を共有される方々とお話する機会を得たことで、卒業までの残り3年間に有意義な時間になりたいという思いを新たにすることができました。そのためにも、都留での学びや出会いなど、全てのことを大切に、周囲の方々に感謝の気持ちを伝えることを忘れずに、毎日をご過ごしていこうと思います。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

(英文学科2年 後藤加奈)



加藤学長(当時)講演

新教員紹介

文大に着任するにあたって

子どもと地域から学ぶ



初等教育学科講師
堤 英俊

本年4月に初等教育学科に着任した堤英俊です。専門は障害児教育学で、なかでも知的・発達障害児の学校教育について臨床社会学の観点から研究しています。

今でこそ、「障害児教育」を看板に掲げていますが、修士課程（学部卒業後そのまま進学）修了までは「地域開発と教育」を自らの専門に据えて研究していました。修士論文では、ブラジルの教育実践・理論家で、著書『被抑圧者の教育学』で広く知られるパウロ・フレイレの晩年の学校教育論を分析し、地域づくりと学校教育とが有機的に連動するための実践要件について考察しました。自分の足でブラジルの地を歩いてみたいと、バックパックを担ぎながら旅し、サンパウロ市郊外のパウロ・フレイレ研究所を訪ねたりもしました。地域の生活言語調査から出発するフレイレの教育実践や生き方に触れる中で、修士課程修了後は一人の実践家として働きながら「実感」に基づいた教育研究を行っていきたいと考えようになりました。

縁あって就職したのは、東京都練馬区にある「旭出学園」という私立の小さな知的障害児の学校でした。方々で「どうして障害児の学校？」とたずねられましたが、私の中では、障害児



ブラジルのパウロ・フレイレ研究所にて

の学校というよりも「旭出学園」を選んだという思いの方が強く、「日本でも有数のオルタナティブ（代替的）な学校で、自由で創造的な実践が認められていたから」と回答してきました。今でも誇りに思うその学校の教員として5年間を過ごし、教育実践に親しむ中で、自然と、子ども理解やマカトン法などの障害児教育実践の基礎を身につけました。創立者である三木安正先生（教育心理学者）の「子どもから学べ！！」という言葉どおり、常に子どもと共に在り、子どもから学ぶ日々でした。とくに、通常学校でいじめや不登校に直面したことで転学してきた軽度・境界域の知的障害児たちから学んだことは多く、彼らとは、フレイレ流の対話型のことばの授業や地域の方々と連携した授業など、様々な試行的な実践を共同で紡ぎました。結果的に、彼らとの日々から得た問題意識が、その後の現職での博士課程進学（および研究上の専門の転換）につながり、ひいては今回の着任につながったとい

えます。

地域に根ざした教員養成大学である都留文科大学に障害児教育学の専任として着任できたことはとても幸運で、今は、修士課程までの専門と博士課程進学の専門とを交差させた「共生のまちづくりと（学校での）障害児教育の連動」というテーマをこの大学この地域でこそ探究したいという思いを強くしています。初等・中等学校の教員ではなくなりましたが、「実践家」としてのアイデンティティを失うつもりはなく、今後は、大学での教師教育や地域と協働での障害児・者支援の機会を大切にしながら、教育研究に励んでいきたいと考えています。趣味の剣道やカヌーを通して、学生や地域のみなさんと関わってきたいです。これからどうぞよろしくお願ひします。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

再出発！



国文学科教授
加藤浩司

本学に着任する前は南大阪の帝塚山学院大学リベラルアーツ学部（旧文学部）に専任講師として就職、助教授を経て教授になり計17年勤めました。その前は長野県松本市の信州大学人文学部に3年助手として勤めていましたので、逆Jターン型に東の方に戻ってきたことになります。

そもそもの生まれは岐阜県岐阜市。名古屋大学文学部国語国文学科卒業後地元岐阜県の高校教師に採用され、飛騨地方の普通科高校に4年間勤めました。飛騨の冬は一面雪に覆われ、車で20分も走ればスキー場。それまでストックを持ったこともありませんでしたが、スキーもそれなりにうまくなりました。（その私もこの2月の山梨の大雪には驚きました。）

しかし一大決心をして退職。1年間準備の後名古屋大学の院に戻り、5歳年下の人たちに交じって研究者を目指しました。5年後、博士課程満期退学目前になってどこにも就職先が決まっていなかった私は、急にポストが空いた信州大に助手として着任することになったのです。

都留文科大学は周囲の環境が信州大学に似ていますが、松本がかなりの人口規模で、観光地でもあり、都市としての機能がほぼ整備されていたのに比べると、もっとずっとこじんまりしています。大学の存在がなければ、富士急行の通過駅の一つに過ぎなかった（そもそも駅もなかった？）と思われます。着任早々なのであまりはつきりとはわかりませんが、本学学生の大部分を占める下宿生の皆さんはそれこそ遊ぶ場所もなく、日々勉強やサークル活動に打ち込んでいることでしょう。そういう意味では理想的な大学所在地と言えます。

しかしながら、東京都心まで普通電車を乗り継いでも3時間ほどしか離れていないところでもあります。図書館や研究機関まで日帰りでき、「大阪に居たときと違い十分な研究や教育ができない」という言い訳はできません。また今はパソコンを開ければネットでほとんどの情報が収集できます。歳も歳ですし、甘えは許されないと、気持ちを引き締めています。

専門分野は古代日本語の研究です。学者の出発点として過去の助動詞の意味についての調査結果をまとめた『キケリの研究』を発表し、もう15年ほど経ちました。本学への着任を機に、今後は、その後書き続けて来たいいくつかの研究成果をまとめようと考えています。一つは「仮名貞

観政要」という鎌倉初期「和訳」資料の研究です。もう一つは「女大学絵抄」を中心とした幕末期の俗語解付き寺子屋教科書の研究です。また、それと並行して、ずっと手がつけられずにいた、学部生時代からの研究テーマである平安文学作品の文体の語学的研究を復活させたいとも思っているところです。

多くの新入学の皆さん同様、私にとっても、本学への着任が新たな出発となることを希望しています。



左上：天和3(1683)年刊「貞観政要」
右上：正保4(1647)年刊「(仮名)貞観政要」
左下：天保14(1843)年刊「童子早学問」
右下：元治元(1864)年刊「女大学絵抄」

新教員紹介

文大に着任するにあたって

着任のご挨拶



国文学科専任講師

菊池有希

4月より国文学科に着任致しました菊池有希です。埼玉県上尾市の聖学院大学にて3年間専任教員として勤務後、本学に参りました。前任校では、近代日本の文学者・知識人の諸作品をテキストに、主に比較文学関連の授業を担当しておりました。本学においても、そのような授業を担当させていただくこととなります。どうぞよろしくお願い致します。

上記の通り、私の専門は「日本近代文学・思想の比較学的研究」ということになるわけですが、私が比較文学という学問に本気で取り組んでみようかと考えだしたのは、迂闊に時を過ごす中で最早大学院に進学するしか道がないという時期の学部4年の秋でした。殆ど授業に出ることなく、古書街で面白そうだと思った店晒しの廉価の本を何でも手当たり次第買って読む、という古き良き時代(?)の大学生活の果てに、遅ればせに「自分という人間は文学や思想といったものに関心があることは間違いないが、どうも特定の国の特定の作家・知識人のテキストの解明に関心があるというより、それが

どのようなコンテキストの中で成り立っているのかという問題の解明に関心の中心があるようだ」ということに思い至り、「ではこういった自分の問題意識を許容してくれそうなところはどこだろう?」と探した結果、比較文学専攻の大学院に流れ着く、というはこびになったわけでした。そして現在は、「近代日本の文学・思想が、江戸末期の開国以来の所謂「西洋の衝撃」をどう受け止め、どう乗り越えていこうとし、そして自らをどう主体的に形作っていったのか」という問題を中心に研究に取り組んでいるところです。

「開国」と言えば、つい先頃まで「平成の開国」などという標語が盛んに口にされていましたが、現代という時代、我が国がさまざまな局面で直面しているのは、約めて言えば「グローバル化の衝撃」ということになるかと思いません。ただ、このグローバル化という現象、今般突如として出来た、全く新しい現象ということではなく、特に19世紀において顕著に見られた現象であり、従って19世紀半ばに日本を襲った「西洋の衝撃」も「第一次グローバル化の衝撃」として捉えることができる、ということも、しばしば指摘されることです。「西洋の衝撃」の意味について多面的に捉え直す作業を通じて、現代という時代を生き抜く上での有効な知恵を獲得することは出来ないか—



八王子の歩道橋から見た甲州街道。画面奥への道は甲州に延び、画面手前への道はお江戸日本橋に、そしてさらにグローバルな地平にまで延びていきます。

一。難しい課題ではありますが、自身の研究の成果を教育の現場に積極的に還元してゆくことを通して、「こういう複雑化して先が見えにくい時代だからこそ温故知新の構えが必要なのだ」ということを、文大の学生諸君に上手に伝えていけたらいいな、と思っている次第です。

今日もまた富士急行は、世界文化遺産に登録された「日本一の富士山」を訪れる外国人観光客で込み合っていました。日本全国から学生の集まる「富士山にいちばん近い大学」としての本学は、「グローバル—ナショナル—ローカル」の関係性について思いを巡らす上で格好の場と言えるかもしれません。しっかり研究・教育に取り組んでいきたいと思っています。改めましてどうぞよろしくお願い申し上げます。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

英文学から自分／世界の『いま』を考える



英文学科准教授
加藤めぐみ

今年度、英文学科の准教授に着任致しました加藤めぐみです。私は上智大学大学院文学研究科英米文学専攻博士後期課程を修了後、日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、上智大学、青山学院大学で非常勤講師として、また東京学芸大学教育学部英語学科では特任講師として「イギリス文化概論」のほか、「英会話」「時事英語」など、語学の「英語」を主に担当して参りました。これまでは英語の教材として「文学・映像作品」を活用し、英語力の向上を目指しながら、英米の社会・文化に対する見識を深めるという授業を行ってきましたが、都留文では英語や英米文学を専門的に学ぼうという学生さんたちと「英文学」を読み、議論していくことが出来るので「これこそ私の天職！」という気概を持って「英文学史」「英米文学講読」「文学・文化演習」などの授業を担当させて頂いております。

私自身、英文学科入学当初は必ずしも「文学好き」の学生ではなく「人類学」「心理学」「女性学」と関心領域は広く浅く、他学科の授業を受講し

たり、フィリピンに1ヶ月行ってみたりと彷徨っていました。それが大学2年生のとき「英文学講読」の授業で読んだノーベル賞作家W.ゴールディングの小説『蠅の王』に夢中になり、レポートで自分の興味に引き寄せて文化人類学的視点から作品分析を試みたところ、先生から思いがけない好評価を頂き「こんな自由な読み方をしてもいいんだ！」とはじめて「英文学」を読み解く面白さに目覚めたのでした。以来「批評理論」や「歴史」を学びながら戦間期のイギリス小説、特にV.ウルフを中心とした女性作家の作品を「女性／身体／優生学」の観点から研究しておりますが、近年は英米の映画やカズオ・イシグロの現代小説なども研究対象にしています。

文学作品を味わい、人生の輝き、ペーソスのようなものを感得する——もちろん文学の存在意義、原点はそこにあるでしょう。ですから英文学科の皆さんには、まずは様々な作品に触れ、多くの感動を体験していただきたいと思います。でもさらに一歩踏み込んで文学解釈の「技法」を会

得できたら、また新たな世界が広がるはずですよ。たとえば文学作品に少し距離をおいて「精神分析」「ジェンダー」「階級」「ポスト・コロニアリズム」「新自由主義」など、何らかの視点から読み解いてみる。また作品が書かれた歴史的コンテクスト（文脈）に眼を向け、一つの作品がいかにその時代の思想的磁場から自由になり得ないのかを検証してみる、など。そういった眼差しで、文学を読んでいくと、最終的には、自分や家族、社会、日本、世界の「いま」そして「未来」を分析的に読み解く批判眼、多元的な視座が身についていくはずですよ。

「英文学を読む」というプロセスは、作品の深淵に潜む「真実」への到達が目的ではなく、作品に自らの視線で、新たな意味づけをしていく極めて「自由」で「創造的」な営みです

私の授業やゼミで学んでいるうちに「自分」や「世界」の見え方が変わってきた！自由な発想が出来るようになった！そう感じていただくのが私の目標です。



2014年度のゼミのメンバーと

新教員紹介

文大に着任するにあたって

英語で相手や事柄について知る楽しさ



教職支援センター
専任講師
かんばる
上原明子

今年度、教職支援センターに着任いたしました、上原明子です。福岡県の公立小学校、アメリカの公立小学校、福岡県教育センター、兵庫教育大学附属小学校を経て本学に採用されました。専門は、小学校英語教育です。

福岡県で教職生活を3年間終了した後、文部省（当時）により派遣されたのは、アメリカ合衆国ヴァージニア州の公立小学校、フォックスミルスクールでした。そこでは、算数や理科などの教科を外国語で教えるイマージョン教育が行われていました。私は、日本語ネイティブ教師として、毎日一日の半分の授業（算数や理科）を日本語のみで行いました。日本語の全く分からない新生児に対して、初日から日本語のみで接します。アメリカ人児童から発せられるのはもちろん英語です。こちら英語で返答した方が事はスムーズに運ぶのですが、日本語で通さなければなりません。それが、イマージョン教育です。教師は、身振り手振りを使って、何を言っているのかが理解しやすいように工夫する必要があります。そうしているうちに、子どもたちは急速に日本語を使い始めました。それは、目を見張るものがありました。外国語を

学び始める児童にとって、状況に合わせて使われる外国語をたくさん聞くこと、知識として覚えるのではなく使いながら身につけることが大切であるとい

うことを学びました。また、相手が何を言っているのかについて、状況等から推測する力も大切です。

日本に帰国してからは、学級担任として様々な実践を行いながら、文部科学省主催の研修講座をはじめ各種セミナーの講師として全国を飛び回り、外国語活動に関する現職教員の研修を担当してきました。外国語活動では、児童が本当に伝えたいこと、知りたいことを柱に、情報のやりとりが行われることが大切です。例えば、児童がペアで話している場面で、片方の子が“What time do you get up?”と聞き、もう一方の子が“I get up at 6:00.”答えます。そして淡々と次のペアと同様の会話を繰り返したとします。これは、お互いに言葉を交わしているという点で一見コミュニケーションのように見えますが、単なる口頭練習に過ぎません。単に英語を発しているだけで、相手から得た情報に注目していないからです。例えば、「6時に起きる。」と答えた児童に対して、相手から「えーっ、早いね。なぜ？」や「私より一時間も早く



「アメリカの公立小学校でイマージョン教育の実践を行っているところです。」

起きているんだね。」などの反応がほしいところです。このように外国語活動では、英語でやりとりをする内容に注目し相手や事柄について知る楽しさを大切にしています。

兵庫教育大学附属小学校では、教育実習生の指導も大きな仕事の一つでした。兵庫教育大学の学生は、全員が兵庫教育大学附属小学校で教育実習を行います。ですので、小学校の全クラスに5～6名ずつ実習生が配置され、それが年に2～3回行われます。私のクラスでも大勢の学生が実習を行いました。実習生のそれまでの学びを生かしながら、全教科の授業実践や学級指導等の支援を行い助言することは、私自身の学びにもつながりました。

教職というのは、とてもやりがいのある仕事です。学校現場や教員研修の経験を生かして、教職を目指す皆さんのお役に立てたらと思います。そして私自身も、都留文科大学でたくさんのことを学んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

都留文科大学で
チャレンジすること

教職支援センター
特任教授
金山光一

都留文科大学に来てから早2ヶ月が過ぎようとしています。4月、桜色の里山から今はすっかり緑あふれる季節になりました。私も少しずつ慣れてきて、落ち着いて仕事に取り組むことができるようになりました。何度かの授業で学生と話をしましたが明るく素直で、都留文科大学に来て本当によかったと思っています。また、何名かの先生とお話する機会がありましたが、皆さんが気さくに話しかけていただきあたたかい大学だなと思いました。私は時々、運命論者になるので、どうして都留文科大学に来たのかを考えてみました。

一つは私のルーツは山梨のどこかの金山村にあるという話です。私の生まれは石川県ですが、祖先が山梨県からきたらしいということを学芸員の弟から聞きました。いつもは弟の言葉をあまり信用していませんが、今回は何となく信じようかなと思っています。

二つ目は私の出身地相模原の教育に誇りを持っているのですが、実は都留文科大学の影響が大変強いと言うことがここ数ヶ月で分かってきました。相模原市の多くの先輩、後輩の先生が都留文科大学出身であり、さらにここ10年間をみても100



北アルプスにて

名近くの若い先生が活躍してくれています。だから私に相模原教育の原点の一つである都留文科大学の教育を勉強してこいと誰かが言ってくれたのかもしれませんが。

三つ目は相模川を通して都留と相模原がつながっていると言うことです。私が相模原市の校長の時、都留で養魚場を営んでいる人が学区にいて、小学校3年生がヤマメの人工ふ化に取り組みました。そして6、7年前に、都留を訪れ、東桂小学校の子どもと一緒に鹿留川に放流しました。今でも鮮明に当時のことを覚えています。先日、東桂中学校に行ったとき当時の先生と偶然お会いして感激の対面をしました。

こんな運命が福田学長先生に会わせてくれたのかもしれませんが。だから私はこれまでの経験や学んできたことを生かし、全力で都留文科大学のために働こうと思います。

私の研究テーマは「小学校の授業を大学に、大学の授業を小学校」にです。私は小学校で子どもが実体験に基づいてディス

カッションを重ね、それを地域や社会に向かって発表する授業を研究してきました。水の授業では山の湧水を飲み、河口で地引き網をして、川が森とつながっていることを学びました。それを地域に発表すると地域一帯となった川のクリーン作戦がさらに盛り上がりました。

大学でも小学生と同じように課題を提示してペアトーク、グループトーク、全体討論と広がっていきます。学生はびっくりするほど活発に話をします。大事なのはどんな課題を提示するかだと思います。また、田植え、森林ボランティアなどの自然体験もします。自然の中で心を開き、本当の会話をして大学生の心を開いていきます。

都留文科大学の一番のすばらしいところは、全国から学生が集まり、そして全国で先生になって行くことです。私の夢は、全国の子どもと先生と保護者が自分のことを自分の言葉で楽しく語れることです。私はこの夢に向かって学生に笑顔で語りかけていきたいと思っています。

学外研究報告



国文学科教授
古川裕佳

昨年度、在外研究の機会をいただき、国内での研修と、二度の海外出張を行った。

研修先は東京大学大学院日本文学研究室の出身ゼミにお願いし、一回り以上若い院生たちと交流させてもらった。例えば博士課程を終えてから、オーバードクター（専業非常勤）を3年間、文大に勤めて8年、とずいぶん長い期間を一人で研究していたことになる。もちろん研究会や学会で研究をめぐって火花を散らすようなこともあるにはあったが、やはり一人前の研究者同士で互いを批判するようなことは避ける傾向がある（そのことの問題性は最近の理研の問題でも指摘されている）。しかし昨年度に出戻った大学院のゼミでは、恩師も後輩も「古川さんそれは違うと思いますよ」と言ってくれる率直さがあり、とても刺激的な経験が出来た。

研究テーマは、具体的には明治から大正期の医療（精神医療）の現場に関わる小説を読むというもので、とくに看護師や女性性の表象に着目した。近代



ウィーン郊外のホイリゲにて
デザート売りの女性

『在外研究体験』

における精神・心理という領域の発見にともない、文学はそれを描き出そうと試みてきた。精神という目に見えない領域を表現するために、小説はあえて普通の状態ではなく、異常を描くことで、精神の形を浮き彫りにする。たとえば、狂気、自殺、性的逸脱を主題とし、看護師など他者（女性）を鏡としながら自らの内なる異常を発見する主人公を描くのである。こうした観点から夏目漱石、志賀直哉、芥川龍之介の作品を再読し、最終的には芥川龍之介の遺書をめぐる考察としてまとめることが出来た。（夏目漱石については来年度以降刊行の辞典の項目に、志賀直哉についての論は在外期間内に終わらず、進行中。）

調査旅行では、精神医療の現場を見るべく、ウィーンのフロイト博物館に行った。フロイトの診療は高額でブルジョワ相手のもだったが、その待合室もオリエンタリズムたっぷりのサロンという感じで、精神医療黎明期における科学と神秘の〈なれ合い〉を感じることができた。ちょうど9月の初めということで、小さなホイリゲでシュトルムをごちそうになった。シュトルムというのはワインの作りかけのようなもので、甘いジュースのような、しかしアルコール濃度の高い飲み物だが、商品としては流通しないため、この時期に訪



ソウルの書店の日本文学コーナー

れた者にとってのご褒美のようなものである。

また別に、日本文学研究の世界から少し外に出てみようとして、韓国の研究者と合同シンポジウムを行った。韓国では、日本という「萌え」の世界——アニメーションなどいわゆるオタク的なジャンル——が流行っているということで、東アジアの文化における看護師への特殊な「萌え」のあり方を比較検討したいと考えたからである。12月のシンポに先立ち、8月にソウルを訪れた。研究者とのディスカッションも刺激的だったが、書店に並ぶ翻訳ライトノベルの表紙を見ると、クールジャパンというより、アキバ系という感じで、恥ずかしいような興味深いような…こちらでは暑い市場の屋台で冷たいビールとおいしいお肉を満喫することができた。

以上、充実した一年間を過ごすことができた。こうした経験をさせてもらったことことへのお礼を、今後の仕事に反映してゆくつもりである。

オンデマンドプリンター稼働中

平成 26 年 4 月まで、学生が自由に利用できるプリンターは、コンピュータ教室、図書館、プリンター室に計 26 台設置してありました。授業のレポート、卒論、クラブ活動の資料等で使用され、年間およそ 34 万枚が印刷されている状況でした。

プリンターの運用は、メーカーの推奨していない手差しトレイに自分で用意した用紙をセットして使用していたため、部品の破損や紙詰まり等のトラブルも多く、無駄と思われる印刷やミスプリントの放置も見られました。また、図書館およびプリンター室に印刷が集中してしまい、特に卒論の時期になると、印刷待ちの学生が行列をつくってし

まうこと、印刷待ちのために提出時間に間に合わなかった学生もいたことなどが、課題となっておりました。

今回導入しましたオンデマンドプリントシステムは、このような課題の解決や学生サービスの向上を目的としたもので、まず、昨年秋より約 3 ヶ月間テスト運用を行いました。テスト運用開始当初は、利用者が少なめでしたが、チラシを作成したり、情報の授業の中に取り入れてもらったりと先生方にも協力していただき、付与した 200 ポイント数を使い切った学生も 20 名以上見られる結果となりました。

今年度より本格的に運用を開始し、新入生には、オリエ

ンテーションで説明を行い、在学生には、学内サイトや掲示物にて利用を呼び掛けております。利用者は、年間 200 枚まで、構内 9 ヶ所(計 13 台)から無料で印刷が可能(不足の場合は有償)となっております。5 月 14 日現在で既にポイントを使い切っている学生も見受けられます。また、個人のパソコンにドライバーをインストールし、学内無線 LAN (tsuruap) 経由からの印刷も可能です。

利用の際には、印刷手順を学内サイトで確認の上、有効に利用していただきたいと考えております。



オンデマンドプリンター
(本部棟 2 階学生担当前)

オンデマンドプリントシステム設置場所

場 所	台 数	用紙種類
本部棟 1 階 (食堂)	2 台	A4・B5
本部棟 2 階 (学生担当前)	1 台	A4
1 号館 1 階 (ホール右側)	2 台	A4・B5
2 号館 1 階 (ホール左奥)	1 台	A4
3 号館 2 階 (ホール右側)	2 台	A4・B5
4 号館 1 階 (ブラウジングルーム内)	1 台	A4
4 号館 2 階 (ホール中央付近)	1 台	A4・B5
図書館 2 階 (入口左側、カウンター横)	2 台	A4・B5
音楽研究棟 2 階 (管理人室前)	1 台	A4
合計 9 か所	13 台	

昨年度の就職状況等を振り返って

副学長（兼キャリア支援センター長）
新保祐司



本学の平成25年度の就職状況を振り返ってみると、就職率は、93.2%で昨年度の96.1%よりも若干下がりましたが、90%台を維持しています。文部科学省と厚生労働省による平成25年度就職状況調査（国公私立大学62校、短大20校）を見ると、今春卒業した大学生の就職率は94.4%（4月1日現在）で、3年連続して上昇しました。アベノミクスによる景気回復を反映しているものと分析されています。

本学では、757名の卒業生（前期卒業生も含む）を送り出しました。就職希望者は600名で、そのうち560名の就職が決まりました。就職率は前述したように93.2%で全国平均の94.4%より少し低い数字となっています。

平成21年度、平成22年度は80%台を低迷していましたが、平成23年度から90%台に回復し、平成25年度も、堅調とっていいと思います。

就職先の内訳をみると、教員（臨時採用を含む）は、公立学校と私立学校を合わせて190名と昨年よりも12名増加しました。これは、平成23年度の193名に次ぐ、近年では高い数字となっています。企業も324名と昨年を上回りました。公務員は、46名と昨年を下回りましたが、平成19年からの数字を見ると、大分増え、40名台を維持しています。

公立学校では、北海道から九州・大分まで全国36都道府県で採用されています。採用数の多い大都市圏の比率が高い傾向が、続いています。千葉の10

名、東京の14名、神奈川の15名、相模原の10名、静岡・市の15名、愛知の7名、といったところが注目されます。山梨も昨年の20名から30名に増えています。

公務員は、この10年間で最高だった昨年度の57名を下回ったものの、46名の合格者を出しました。国家公務員が、7名（昨年度2名）、地方公務員が39名（昨年度50名）となっています。例年通り、市役所や県警察本部などが多くなっています。

民間企業就職者は、324名に上り、昨年度の310名をさらに上回りました。運輸通信業（30→37）、卸小売業（67→79）などが増加しました。

さらに、大学院などへの進学者は、50名と昨年の45名よ

平成24年3月卒業生 就職先一覧

■初等教育学科

企業

- アトム運輸 株式会社
- キャトルエビス
- セブンカフェ スクールIE 井藤校
- 愛媛県民球団 株式会社
- 横浜 YMCA
- 家庭教師のファミリー
- 花巻農業協同組合
- 株式会社 アイデック
- 株式会社 エイ・ネット
- 株式会社 カネト
- 株式会社 ティンパンレイ
- 株式会社 はせがわ
- 株式会社 リンリン
- 株式会社 横浜十番館
- 株式会社 昌栄（徳島洋菓子倶楽部イローザ）
- 株式会社 乗馬クラブクレイン
- 株式会社 日本ドイケアセンター
- 株式会社 夢真ホールディングス
- 株式会社 類設計室
- 株式会社 アルコバレーノ
- 株式会社 エイジェック
- 株式会社 サウンズグッド
- 株式会社 マリススポーツ・オフィス
- 高田学童保育所
- 山梨県民信用組合
- 山梨県立科学館
- 児童養護施設 あいむの会
- 社会福祉法人 同徳福祉人連盟
- 社会福祉法人正栄会 さかえ保育園
- 川内学童保育クラブ
- 中村産婦人科医院
- 武蔵商事 株式会社
- 有限会社 エフ NPO法人
- フォルトゥナスボルトクラブ

教員

- さいたま市教育委員会

- 愛知県教育委員会
- 愛媛県教育委員会
- 茨城県教育委員会
- 横浜市教育委員会
- 岡山県教育委員会
- 岐阜県教育委員会
- 群馬県教育委員会
- 広島県教育委員会
- 埼玉県教育委員会
- 札幌市教育委員会
- 三重県教育委員会
- 山形県教育委員会
- 山口県教育委員会
- 山梨県教育委員会
- 滋賀県教育委員会
- 新潟県教育委員会
- 神奈川県教育委員会
- 静岡県教育委員会
- 静岡県教育委員会
- 石川県教育委員会
- 仙台市教育委員会
- 千葉県教育委員会
- 川崎市教育委員会
- 相模原市教育委員会
- 長野県教育委員会
- 東京都教育委員会
- 徳島県教育委員会
- 栃木県教育委員会
- 福岡県教育委員会
- 福島県教育委員会
- 兵庫県教育委員会
- 北九州市教育委員会

公務員

- 法務省矯正局
- 山梨県庁
- 特別区人事委員会
- 長野県警察本部
- 南会津町役場
- 富士河口湖町役場

■国文学科

企業

- J A 中巨摩東部
- イースト 株式会社
- エムサービス 株式会社
- シリウスグループ
- フジニコボレーション(株)
- リンクレア 株式会社
- 一般社団法人 富士市医師会
- 翔エアグラウンドドリフティング株式会社
- 株式会社 アイキューブ
- 株式会社 あきんどスロー
- 株式会社 サイゼリヤ
- 株式会社 さなる(佐鳴予備校)
- 株式会社 サンキョー(甲斐ゼミナール)
- 株式会社 ダイナム
- 株式会社 トップカルチャー
- 株式会社 ニシザワ
- 株式会社 ブラーヴォ
- 株式会社 マイテック
- 株式会社 メッセージ
- 株式会社 ユニバース
- 株式会社 リューマンシステムイースト
- 株式会社 学生情報センター
- 株式会社 共和
- 株式会社 恒和薬品
- 株式会社 高橋屋
- 株式会社 三経ホテル
- 株式会社 出雲殿
- 株式会社 上野高松
- 株式会社 長野こまち
- 株式会社 富士急ハイランド
- 株式会社 蔵文社(おふんしゅ)
- 株式会社 キャンデラインターナショナル
- 株式会社 シー・ワイ・エス・ベイエリア
- 株式会社 ニッショウ
- 株式会社 プレシオスパートナーズ
- 群馬県国民健康保険団体連合会
- 月岡温泉 ホテル清風苑
- 佐久総合病院
- 社会福祉法人 村山福祉法人

- 社団法人 福島県医師会
- 小松市農業協同組合
- 松井自動車工業株式会社
- 松田印刷
- 上諏訪温泉 ホテル紅や
- 菅野製産 株式会社
- 諏訪瓦斯 株式会社
- 諏訪信用金庫
- 石友ホーム 株式会社
- 全国農業協同組合連合会
- 都留文科大学
- 東日本ハウス 株式会社
- 湯の華市場
- 明和工業 株式会社
- 頸城自動車 株式会社

教員

- 愛知県教育委員会
- 横浜市教育委員会
- 宮城県教育委員会
- 広島県教育委員会
- 札幌市教育委員会
- 山梨県教育委員会
- 神奈川県教育委員会
- 静岡県教育委員会
- 千葉県教育委員会
- 相模原市教育委員会
- 長野県教育委員会
- 島根県教育委員会
- 東京都教育委員会
- 富山県教育委員会
- 福島県教育委員会
- 名古屋市教育委員会
- 神奈川県 才教学園
- 創志学園グループ
- 学校法人向上学園 向上高等学校

公務員

- 独立行政法人 国立印刷局
- 静岡工場
- 警視庁
- 北海道警察本部
- 山梨市役所

■英文学科

企業

- ANA エアポートサービス 株式会社
- K の情報
- N E C ソフト 株式会社
- アイル 株式会社
- アイトップス 株式会社
- イオンモール 株式会社
- イトキン 株式会社
- キャメル珈琲 株式会社
- サンローズ 株式会社
- スペースプラニー
- みずほ信託不動産販売 株式会社
- ミニストップ 株式会社
- よつ葉乳業 株式会社
- ルートイングループ
- 医療法人社団三友会 あげぼの病院
- 越山山清堂
- 学校法人 明治大学
- 株式会社 ICS コンexion デザイン
- 株式会社 アカデミー
- 株式会社 イオンフレスト
- 株式会社 いつぱ
- 株式会社 エー・ビー・カンパニー
- 株式会社 エス・ティー・ワールド
- 株式会社 ケイライン
- 株式会社 コミュニケーションサービス
- 株式会社 ザグザグ
- 株式会社 サンキョー(甲斐ゼミナール)
- 株式会社 ツルハ
- 株式会社 テック・ワン
- 株式会社 トリドール
- 株式会社 ハットトリック
- 株式会社 ハピネット

- 株式会社 フォースアンドカンパニー
- 株式会社 ボンバドウル
- 株式会社 メックス
- 株式会社 ヤングファッション研究所
- 株式会社 ユアソフ
- 株式会社 ライトオン
- 株式会社 河口湖第一ホテル
- 風のテラス K U K U N A
- 株式会社 光通信
- 株式会社 光富士
- 株式会社 俊英館
- 株式会社 東和システムエンジニアリング
- 株式会社 上組
- 株式会社 水戸京成百貨店
- 株式会社 早稲田学習研究会
- 株式会社 長大
- 株式会社 天野回酒店
- 株式会社 東武ホテルマネジメント
- 株式会社 富士パークホテル
- 株式会社 北洋銀行
- 株式会社 葉王堂
- 株式会社 マリススポーツ・オフィス
- 丸全昭和運輸株式会社
- 伊豆日産自動車 株式会社
- 佐久浅間農業協同組合
- 三共興フアッションサービス 株式会社
- 社会福祉法人 児童養護施設松風荘
- 新潟総合警備保障 株式会社
- 積和不動産 株式会社
- 大東建託 株式会社
- 整理 株式会社
- 都留信用組合
- 株式会社 東京反沢 株式会社
- 東京平田日本語学院
- 日本電計株式会社
- 日本郵便 株式会社
- 富士河口湖温泉郷 湖南荘
- 福井日産自動車 株式会社
- 来久 株式会社
- 保険のろぼ
- 忘れの里 雅苑苑
- 六花亭製菓 株式会社

表 1 平成 17～25 年度の就職関係データ

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
卒業生数A	629	675	642	683	667	717	761	735	757
就職希望者数B	520	516	490	521	511	530	593	567	600
就職決定者数C	430	488	467	492	459	437	544	545	560
大学院等進学者数D	35	44	47	53	53	51	57	45	50
就職率C/B×100	82.69	94.57	95.31	94.43	89.82	82.45	91.7	96.12	93.17
進路決定率(C+D)/A×100	73.93	78.81	80.06	79.8	76.76	68.06	78.98	80.27	80.45
内訳									
企業	260	315	309	315	252	217	297	310	324
教員	135	136	138	153	169	176	193	178	189
公務員	29	37	20	24	38	44	54	57	46

りも増えています。卒業生のうち、就職決定者と大学院等への進学者を合わせると昨年と同じく、8割を超えました。

以上、昨年度の就職・進学等の状況について簡単にまとめました。今年度の就職率を報じた新聞記事によれば、東日本大震

災の復興需要や景気回復で求人が増える一方、リーマン・ショック前の就職率 96.6%に届かなかった理由について、厚労省では「大企業を中心に厳選の傾向が強かったため」と分析しています。

就職状況の厳しさは、当分続

くと思われますが、キャリア支援センターは、皆さんにとって良い結果ができるように、これまで以上に各種の就職関連行事を通して応援していきますので、積極的に参加・活用してください。

表 2 平成 26 年 3 月卒業生（前期卒を含む）の就職先別人数

A 教員		
小学校	119	
中学校	43	
高等学校	20	
私立学校	8	
教員合計	190	

B 公務員		
国家公務員	7	
地方公務員	39	
公務員合計	46	

C 民間企業		
農業	2	
建設業	7	
製造業	34	
電気・ガス熱供給業	3	
運輸通信業	37	
卸小売業	79	
金融保険業	24	
不動産業	7	
サービス業	131	
合計	324	

*当該県の政令指定都市も含む

D 公立学校都道府県別採用数（臨採含む）			
北海道	5	山梨県	30
岩手県	1	長野県	12
宮城県	4	岐阜県	2
山形県	2	静岡県	15
福島県	4	愛知県	7
茨城県	3	名古屋	1
栃木県	2	三重県	2
群馬県	2	滋賀県	1
埼玉県	6	京都府	1
千葉県	10	兵庫県	3
東京都	14	島根県	1
神奈川県	15	岡山県	5
横浜市	4	広島県	2
川崎市	2	山口県	1
相模原市	10	徳島県	2
新潟県	2	愛媛県	1
富山県	3	福岡県	3
石川県	2	大分県	1
福井県	1	合計	182

教員

- 横浜市教育委員会
- 岡山市教育委員会
- 岩手県教育委員会
- 岐阜県教育委員会
- 群馬県教育委員会
- 群馬県教育委員会
- 札幌市教育委員会
- 山梨県教育委員会
- 神奈川県教育委員会
- 静岡県教育委員会
- 長野県教育委員会
- 東京都教育委員会
- 富山県教育委員会
- 福島県教育委員会
- 兵庫県教育委員会
- 北海道教育委員会
- 学校法人 藤原学園 鶴沼高等学校
- 学校法人 沼津学園 飛鷹高等学校
- 富士学苑高等学校

比較文化学科

企業

- (株)LivDesign(リヴ・デザイン)
- KNOCK
- PLS プレゼンシャル株式会社
- アイトウ 株式会社
- アチーブメント 株式会社
- 株式会社スリー・イー
- ソフトバンクグループ
- フックオフ・コレクション株式会社
- ミニストップ 株式会社
- メディカル・ケア・サービス株式会社
- ユニタス日本語学校
- 医建エンジニアリング株式会社
- 医療法人社団 藤橋会

- 一般社団法人那覇市観光協会
- 白井国際産業 株式会社
- 奄美新聞社
- 家庭教師のファミリー
- 学校法人 日本航空学園
- 株式会社 ティールウィンド
- 株式会社 OCS
- 株式会社 アステック信州
- 株式会社 アリシア
- 株式会社 イノウエ
- 株式会社 イワキ
- 株式会社 エイチ・アイ・エス
- 株式会社 エス・エス・アヴェニュー
- 株式会社 コム
- 株式会社 コンテック
- 株式会社 サイゼリヤ
- 株式会社 サンスタースタイル
- 株式会社 タツミ
- 株式会社 ツルハ
- 株式会社 トリドール
- 株式会社 ネオピエント
- 株式会社 マツカワケアサービス
- 株式会社 ライフライン
- 株式会社 愛媛銀行
- 株式会社 順ロイヤルパークホテル
- 株式会社 丸和運輸機関
- 株式会社 岩手畜産流通センター
- 株式会社 秀英予備校
- 株式会社 昌栄
- (徳島県) 華洋印刷(株)
- 株式会社 星野リゾート
- 株式会社 静岡中央銀行
- 株式会社 大和不動産
- 株式会社 長印ホールディングス
- 株式会社 東急コミュニケーション
- 株式会社 読売旅行
- 株式会社 ジェイティーピー
- ビジネスストラテジーソリューション
- 株式会社 ティー・アンジュ
- 株式会社 ホンダ四輪販売甲信
- 株式会社 近畿日本ツーリスト東北
- 関東物流 株式会社
- 岐阜産研工業 株式会社

公務員

- 警視庁
- 長野県警察本部
- 千葉県庁
- 福島県庁
- 福山市役所
- 鎌倉市役所
- 真輪町役場

社会学科

現代社会専攻

- 企業
- 株式会社 ディー・アイ・コンサルティング
- A S A 八王子中央販売株式会社
- T O T O アクア株式会社
- アールビバン 株式会社
- アコム 株式会社

- アスフィール 株式会社
- アンフーズアンドカンパニー株式会社
- はなまがり歯科医院
- ヤマモト農機製造東北営業部
- ユニツト 株式会社
- 愛知北エフエム放送 株式会社
- 伊豆下田温泉 黒船ホテル
- 株式会社 アイ・シー・ピー
- 株式会社 あきんどスロー
- 株式会社 エスコミュニケーション
- 株式会社 オーイズミフーズ
- 株式会社 オギノ
- 株式会社 かんぽ生命保険
- 株式会社 こうゆう
- 株式会社 サンキョー(甲斐セミナー)
- 株式会社 ジャパンイマジネーション
- 株式会社 ツルハ
- 株式会社 トウワ
- 株式会社 ハイサイド・コーポレーション
- 株式会社 ハニーズ
- 株式会社 やまびこ
- 株式会社 ゆうちょ銀行
- 株式会社 日刊編集センター
- 株式会社 エーエフシー
- 株式会社 クロス・マーケティング
- 関影商事 株式会社
- 高岡ガス 株式会社
- 斎藤内科医院
- 三井住友火災保険株式会社
- 山梨県民信用組合
- 社会福祉法人 聖住社
- 住友生命保険 相互会社
- 静岡県商工会連合会
- 静岡市農業協同組合
- 都留文科大学
- 日本出版販売 株式会社
- 日本郵便 株式会社
- 福島県産業振興会 おおなみ学園
- 弁護士法人中田・島尾法律事務所
- 豊橋鉄道株式会社
- 明電電機 株式会社
- 矢崎総業 株式会社

教員

- 岡山県教育委員会
- 山梨県教育委員会
- 静岡県教育委員会
- 千葉県教育委員会
- 相模原市教育委員会
- 大分県教育委員会
- 長野県教育委員会
- 東京都教育委員会
- 学校法人 南陵学園 南陵高等学校

環境・コミュニティ創造専攻

企業

- キャメル珈琲 株式会社
- しのめ信用金庫
- にいたけ南蒲農業協同組合
- 愛三工業 株式会社
- 伊賀の里モクモク手づくりファーム
- 伊藤忠エネクスホームライフ
- 西日本 株式会社
- 株式会社 アルエフ
- 株式会社 インテリジェンス
- 株式会社 クロスカンパニー
- 株式会社 コメリ
- 株式会社 ドン・キホーテ

- 株式会社 フラワーホーム
- 株式会社 ワイ・シー・シー
- 株式会社 海津屋
- 株式会社 商業藝術
- 株式会社 日能研
- 株式会社 富山銀行
- 株式会社 長野エコーサブプライ
- 公益財団法人 キーパ協会
- 公益財団法人 河野臨床医学研究所 北品川クリニック
- 公益社団法人 日本理学療法士協会
- 甲府市農業協同組合
- 三島信用金庫
- 社会福祉法人 岳陽会
- 小松ウオール工業 株式会社
- 静岡ティーエム証券株式会社
- 全国農業協同組合連合会
- 徳島県本部
- 東日本旅客鉄道 株式会社
- 明星産商 株式会社
- 静岡市役所
- 都留市役所
- 福井市役所
- 富士河口湖町役場
- 別海町役場

教員

- 茨城県教育委員会
- 山梨県教育委員会
- 千葉県教育委員会
- 川崎市教育委員会
- 相模原市教育委員会
- 東京都教育委員会
- 栃木県教育委員会
- 富山県教育委員会
- 名古屋国際中学校 高等学校

公務員

- 静岡県警察本部
- 長野県警察本部
- 白河市役所
- 北北市役所
- 本市役所

「学生による授業アンケート」の結果から

予習・復習の習慣を身につけよう

FD委員会委員長 平野耕一



1. 授業アンケートの趣旨

本学では、毎年度の前期と後期に「学生による授業アンケート」を行っています。この稿では、2013年度の授業アンケートの結果を総括します。

授業は、教員だけが作るものではありません。教員と学生のやり取りがあって初めて成り立つものです。したがって、学生の皆さんも積極的に参加し、大学・教員に改善に向けての希望があれば、授業アンケート等の機会をとらえて申し出て下さい。みなさんの意見は各授業の担当教員に届けられ、授業の改善が検討されます。また、特に教室の設備等（机や椅子、プロジェクター等）の具体的な改善の要望については、大学として

対応していきます。

2. 主体的な学習を

表1は、授業アンケートのセクションA「この授業を履修した主な理由」の結果です。「シラバスを読んで興味を持った」、「授業の分野に興味があった」、「将来役立つと思った」という積極的な回答も多かったのですが、「必修科目だった」、「この時間が空いていた」という消極的な理由も目立ちます。大学は義務教育ではなく自らの意志で学ぶ所ですから、自ら興味を持ち、授業に関連することも自分で調べてみるなど、主体的な学習が望まれます。就職難の時代ですので、周りと同じことをしては差がつかせません。

3. 予習・復習の重要性

2013年度のアンケートの全体平均（表2の最右）を見ると、ほとんどの項目の平均点が4点前後ですが、質問項4の「この授業について、予習あるいは復習をしましたか。」という項目だけが3点近くと、他と比

表1 この授業を履修した主な理由（複数回答可）

設問 理由	前期 (%)	後期 (%)
1. 必修科目だった	43.4	45.6
2. シラバスを読んで興味を持った	13.9	15.4
3. 授業の分野に興味があった	16.9	16.9
4. よい授業と聞いていた	3.2	3.0
5. 将来役立つと思った	11.4	9.6
6. 単位を取りやすいと思った	2.0	1.4
7. この時間が空いていた	7.7	6.8
8. 無効回答	1.4	1.3

表2 授業形態比較（2013年度）

項	設問文	講義		外国語		実習・実験・実技		演習		全体平均	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点									
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度（3回程度の欠席）を「普通」とし、5段階で答えてください。	4.25	4.10	4.35	4.11	4.49	4.24	4.46	4.33	4.29	4.13
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.71	3.76	3.61	3.67	3.99	4.00	4.01	3.91	3.73	3.78
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	3.93	3.93	4.05	4.04	4.57	4.45	4.38	4.37	4.02	4.01
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行かなかったを1とし、5～1の範囲で答えてください。	2.96	3.02	3.60	3.49	3.18	3.05	3.55	3.40	3.07	3.10
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.77	3.82	3.78	3.84	4.33	4.26	4.23	4.20	3.83	3.88
C	授業の進め方について	セクション平均点									
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.05	4.12	3.90	4.03	4.51	4.48	4.45	4.35	4.09	4.15
9	話し方（声の大きさや明瞭さなど）や板書は、わかりやすかったですか。	4.01	4.08	3.99	4.08	4.49	4.49	4.43	4.34	4.07	4.13
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使い方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.14	4.21	4.01	4.10	4.23	4.31	4.43	4.34	4.15	4.21
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.92	3.98	3.88	3.98	4.42	4.41	4.40	4.31	3.98	4.04
D	授業環境について	セクション平均点									
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.03	4.07	4.15	4.18	4.47	4.47	4.33	4.33	4.09	4.13
E	授業内容について	セクション平均点									
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.09	4.14	3.97	4.08	4.51	4.50	4.43	4.36	4.13	4.18
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.08	4.16	3.86	4.06	4.42	4.42	4.48	4.37	4.10	4.18
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.03	4.08	3.93	4.02	4.37	4.40	4.39	4.26	4.07	4.11
16	授業のレベル（難易度）は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.45	3.44	3.42	3.45	3.56	3.55	3.60	3.52	3.46	3.46
F	授業成果について	セクション平均点									
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.11	4.18	3.89	4.06	4.47	4.48	4.47	4.40	4.14	4.20
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.10	4.18	3.82	4.05	4.36	4.38	4.46	4.39	4.11	4.20
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.13	4.21	4.01	4.18	4.56	4.55	4.54	4.45	4.17	4.25

較してかなり低い数字となっています。これは、自分としてどう思うのかについての回答なので、学生が自ら予習・復習が十分でないと感じているということだと思います。ここで、予習・復習の重要性を改めて考え直してみましよう。

予習の際に、次の授業の内容について確認し、自らの疑問点をリストアップしておく、疑問点は教員に質問する等して授業のその時に解決する、くらいの姿勢が理想でしょう。そうすれば、復習は確認程度で知識の定着ができる場合もあります。学生の皆さんが社会に出てからも、会社の会議やプレゼンテーションや商談に、準備（予習に相当）なしで行くということはありません（教員を目指す人は授業の準備に時間を割くことになります）。その後はまとめの作業（復習に相当）が必要になります。そういう意味でも今のうちに予習・復習を習慣付けることが必要です。サッカー日本代表の本田圭佑選手

は、「次に向けてきちんと準備をします。」という言葉をよく使いますが、どれだけ周到に準備（予習）ができているかで、勝負の大半は決まってしまうのかもしれない。

4. 授業形態比較と学年比較

表2は、「講義」、「外国語」、「実習・実験・実技」、「演習」それぞれの授業形態別の比較です。比較的、「実習・実験・実技」と「演習」の点数が高く、「講義」と「外国語」の点数が低い傾向があるようです。理論（講義等）と実践（実習・実験等）がセットになっている科目もあり、理論と実践は相補的な関係にありますので、両者の大切な所を共に吸収するようにして下さい。

表3は、学年別の比較です。本来は、同じ集団が学年を上がっていく場合の変化を見なければ正確なことは言えないのですが、表3では、学年が上がるにつれて点数が上がる傾向があるようです。特に1年生は、ある程度勉強する範囲が定まっ

ている高校の授業と、その分野の研究者が講義を行う大学の授業とで、最初はギャップを感じる人もいるかもしれません。大学の授業ではだんだんと専門的な内容を扱うようになり、その先には卒業研究もあります。高校の授業とやり方が異なってくるのはやむを得ない部分だと思いますが、勉強の仕方等で迷った時には、その科目の教員に勉強の仕方を聞いてみることをお勧めします。

5. 授業改善に向けて

今回の授業アンケートで、私も自分で担当している授業の改善に向けて、貴重な意見を頂きました。話すスピードや、実験器具のこと、配布プリントについてや、パワーポイントに関して等、自分で気付かなかったことや、逆に思っていたこともあり、良いヒントになりました。この声を基にして、もっと分かり易い授業になるよう、できるところから改善していきたいと思ひます。

表3 学年比較（2013年度）

項	設問文	1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点		3.83	3.82	3.77	3.77	3.76	3.73	3.75	3.78
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席)を「普通」とし、5段階で答えてください。	4.57	4.34	4.22	4.09	4.18	3.98	3.70	3.77		
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	3.69	3.75	3.74	3.80	3.76	3.77	3.81	3.78		
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	4.03	4.02	4.01	3.98	3.96	3.98	4.13	4.12		
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行わなかったを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.08	3.12	3.06	3.10	3.03	3.01	3.12	3.24		
5	授業の内容をよく理解できましたか。	3.78	3.85	3.80	3.85	3.88	3.92	4.01	4.01		
C	授業の進め方について	セクション平均点		3.97	4.05	4.07	4.13	4.15	4.20	4.25	4.28
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	3.98	4.08	4.09	4.15	4.17	4.20	4.30	4.29		
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	3.97	4.04	4.06	4.12	4.14	4.20	4.25	4.28		
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.02	4.11	4.16	4.23	4.24	4.29	4.29	4.34		
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.90	3.97	3.97	4.01	4.05	4.11	4.17	4.19		
D	授業環境について	セクション平均点									
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	4.17	4.18	4.05	4.06	4.05	4.12	4.08	4.17		
E	授業内容について	セクション平均点		3.87	3.93	3.93	3.96	3.99	4.02	4.10	4.14
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	4.05	4.12	4.11	4.16	4.18	4.23	4.30	4.30		
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.01	4.10	4.10	4.18	4.17	4.24	4.30	4.39		
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	4.00	4.06	4.05	4.08	4.11	4.15	4.24	4.26		
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.43	3.44	3.46	3.43	3.47	3.44	3.57	3.61		
F	授業成果について	セクション平均点		4.05	4.15	4.13	4.20	4.20	4.26	4.35	4.41
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.04	4.14	4.13	4.19	4.19	4.24	4.33	4.39		
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.00	4.12	4.12	4.18	4.19	4.25	4.33	4.40		
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.11	4.19	4.15	4.23	4.22	4.29	4.38	4.45		

文大だより

平成 25 年度 都留文科大学卒業式

平成 26 年 3 月 22 日（土）、午前 11 時より都の杜うぐいすホールにて、平成 25 年度 都留文科大学卒業式を開催いたしました。当日は、それぞれの明るい将来を示すかのように 澄み渡った青空が広がり、751 名(学部、専攻科、大学院を含む)がそれぞれの道へ旅立ちました

式典は理事長の「再び全国各



式典の様子

地へと巣立ち、様々な道に進まれることとなりますが、不屈の精神でこの困難な時代を乗り越えていただきたい」との挨拶から始まり、卒業証書・修了証書・学位記などが各学科の代表者に授与されました。その後、学長より「本学で磨いた知性と感性を存分に発揮して、自分がどのように未来に貢献できるか模索してください」と卒業生・修了生に対する「送ることば」が述べられました。

そして最後に、卒業生代表の英文学科 神座想さんより「夢や目標に向かって進むうえで、苦難や壁にぶつかることもあると思うが、都留文科大学で学べた知識や経験、かけがえのな



学位記授与

い友人との思い出やつながりを糧に、自らの人生を精一杯、歩んでいきます」と語られ、会場からは大きな拍手が湧き上がりました。

本学の吹奏楽部並びに合唱団による学生歌「花のかげ」が演奏されるなか、式は無事終了いたしました。

平成 25 年度 卒業生・修了者数

<p>■ 文学部</p> <p>初等教育学科..... 201 名</p> <p>国文学科..... 129 名</p> <p>英文学科..... 146 名</p> <p>社会学科</p> <p>現代社会専攻..... 104 名</p> <p>環境・コミュニティ創造専攻..... 63 名</p> <p>比較文化学科..... 114 名</p>	<p>■ 専攻科</p> <p>文学専攻..... 5 名</p> <p>■ 大学院</p> <p>臨床教育実践学..... 1 名</p> <p>国文学..... 2 名</p> <p>英語英米文学..... 4 名</p> <p>比較文化..... 3 名</p> <p>社会学地域社会研究..... 3 名</p>
--	--

平成 26 年度 入学試験状況

平成 26 年度 推薦入学試験状況			
学科名		受験者数	合格者数
初等教育学科		200	92
初等教育学科（芸術体育系・自然環境科学系）		27	18
国文学科		182	68
英文学科		72	41
社会学科	現代社会専攻	92	48
	環境・コミュニティ創造専攻	48	26
社会学科環境・コミュニティ創造専攻（活動評価型推薦）		18	10
比較文化学科		100	59

平成 26 年度 編入試験状況			
学科名		受験者数	合格者数
初等教育学科		19	10
国文学科		8	5
英文学科		13	5
社会学科	現代社会専攻	6	3
	環境・コミュニティ創造専攻	4	1
比較文化学科		9	5

平成 26 年度 前期日程入学試験状況			
学科名		受験者数	合格者数
初等教育学科		65	30
国文学科		54	28
英文学科		74	54
社会学科	現代社会専攻	78	47
	環境・コミュニティ創造専攻	14	12
比較文化学科		114	52

平成 26 年度 中期日程入学試験状況			
学科名		受験者数	合格者数
初等教育学科		226	90
国文学科		335	110
英文学科		237	101
社会学科	現代社会専攻	124	36
	環境・コミュニティ創造専攻	62	26
比較文化学科		251	79

文大だより

平成25年度 学生表彰制度による表彰

課外活動において特に顕著な成績を挙げたと認められる学生や団体、また、社会活動において社会的に高い評価を受けたと認められる学生や団体に対する学生表彰制度により、7名1団体が表彰されました。



表彰の様子

被表彰者名	概要
陸上競技部 西田 彩乃	天皇賜盃 第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 4×400m 5位入賞、第94回日本陸上競技選手権リレー競技大会 4×400m 7位入賞 他
陸上競技部 竹山 由希子	天皇賜盃 第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 4×400m 5位入賞、第94回日本陸上競技選手権リレー競技大会 4×400m 7位入賞 他
陸上競技部 高橋 優香	2013日本学生陸上競技個人選手権大会 200m 5位入賞、天皇賜盃第82回日本学生陸上競技対校選手権大会 100m 8位入賞 他
陸上競技部 沖田 真理子	2013日本学生陸上競技個人選手権大会 800m 優勝、天皇賜盃第82回日本学生陸上競技対校選手権大会 800m 4位入賞 他
陸上競技部 池嶋 祥子	第68回国民体育大会 400m 8位入賞、第97回 日本陸上競技選手権リレー競技大会 4×400m 8位入賞 他
陸上競技部 二宮 聡史	第29回日本ジュニア陸上競技選手権大会 走幅跳 8位入賞（本学陸上競技部男子選手における全国大会入賞は史上初。）
合唱団	全日本合唱コンクール全国大会 5年連続金賞受賞、あわせて日本放送協会賞受賞
宮下 凌瑚	郡内地域の小・中・高等学校で東日本大震災における災害ボランティア活動に基づく講演活動を行った。また、豪雪時における災害ボランティアセンターや本学サテライトの運営スタッフとして学生ボランティアを効率よく派遣するなど、中心的役割を果たした。

成績優秀者表彰式が行われました

6月10日（火）、昨年度（平成25年度）学内において優秀な成績を修めた学生を表彰する「成績優秀者表彰式」が行われました。

対象となったのは、初等教育学科・国文学科・英文学科・社会学科・比較文化学科の各学科の、2年生から4年生までの各学年で1名ずつ、計15名の成績最優秀者と、各学年で2名ずつ、計30名の成績優秀者（今回は2名同点が2件あったので計32名）で、式典では大谷理事長と福田学長からお祝いの言葉をいただき、続いて学長より表彰状が授与されました。

また対象者には、本年度より創設された「成績優秀者奨学金」が給付されます。



表彰式の様子

文大だより

フィールド・ミュージアム通信

「つるりん」にブナの赤ちゃんが！

1号館とグランドの間にある細長い林(通称「つるりん」)は、約40年前に当時の教職員が周辺の山の植生を模して創った林です。この林にブナがあるのをご存知ですか？当時植えられたブナは、今では直径が30cmを超える立派な大木となっています。このブナの木、今年の秋は豊作だったらしく、林床には辺り一面ブナの種子が落ちていました。この春、それら種子の

間からブナの可愛い実生(赤ちゃん)たちが、ひょっこり顔を出しているではありませんか！これまでに種子ができた年は幾度かありましたが、実生が芽生えたのは今年が初めてです。ひょっとしたら今年2月の大雪と何か関係があるのかもしれませんが。この貴重なブナの赤ちゃんを静かに見守っていきたいと思います。



撮影：川村修央

企画展『写真が伝える都留の思い出
—未来へ贈る地域の記憶—』を開催しました

地域交流研究センターのフィールド・ミュージアム部門では、2009年から地域の財産として地域に残る写

真・資料のデータベース化を進めてきました。都留市内で撮影された写真だけでも現在、5000点を超え、ミュージアム都留と連携した資料の収集も始めました。こうした資料を活用して、3月22日から5月6日まで、ミュージアム都留において、都留市・都留市教育委員会・地域交流研究センター主催の企

画展を開催しました。開催期間中の入場者数は886名で、本学の卒業生のみなさんも多く訪れるなど盛況でした。今後も、地域の写真資料を収集しながら、展示のみならず地域の小・中学校の授業に用いるなど幅広い活用方法を検討していこうと考えています。

(地域交流研究センター
フィールド・ミュージアム部門)



文大だより

第 45 回 つる子どもまつり開催

5月18日(日)、都留文科大学を会場として第45回つる子どもまつりが開催されました。

「子どもたちがものやあそび



みんなのひろば

の工夫を発見できる場にしよう」という今回の子どもまつりの目標のもと、キャンパス内に設けられた各ブース「くに企画」で、工作や演劇、音楽の演奏など個性的なレクリエーションが行われ、訪れる人たちの笑顔がはじけました。

夏の盛りを連想させるような高い気温の中、元気に笑いながら走る子どもたちの楽しそうなこえが、快晴の都留の空の下に響き渡りました。



くに企画 「太鼓のくに」



くに企画 「あそびのくに」

平成 26 年度 オープンキャンパス

・夏季オープンキャンパス

平成26年7月19日(土) 午前9時～午後3時

[主な内容]

○学科別説明会○卒業後の進路と就職状況説明会○学科別特別講義○進学相談会○留学制度相談会○学生生活相談会○学生によるキャンパスツアー○学食体験○体育会、文化会等の活動報告

・秋季オープンキャンパス

平成26年 10月13日(月・祝)～24日(金) (水・土・日を除く) 午前9時10分～午後4時20分

[主な内容]

○公開授業体験○キャンパスツアー○進学相談会○学食体験



キャンパスライフの説明(夏季)



キャンパスツアー(秋季)

申込方法 本学 HP もしくは FAX により申し込みください。

HP : <http://www.tsuru.ac.jp/>

FAX : 0554 - 43 - 4347

問合せ先 都留文科大学 総務課 総務企画担当

TEL : 0554 - 43 - 4341 (内線 210)

文大だより

同窓生との模擬面接体験会

5月10日(土)に教員を
目指す学生を対象とした模擬面接
体験会が開催され、約150名
の学生が参加しました。この体
験会では本学卒業生が全国各地
より参集し、講師としてご指導

いただきました。

第1部では代表学生が集団面
接・集団討論・模擬授業を行い、
その他の学生が見学できる形式で
行われました。各分野において担
当面接官より講評をいただき、き

め細かい指導が行われました。

第2部では地域ごとに教室に
分かれ、教員採用試験における
アドバイスや集団面接等の体験
が行われました。参加した学生
は熱心に取り組み、今後の採用
試験に向けて良い刺激になった
ようです。ご協力いただきました
同窓会の講師の皆様へ感謝申
し上げます。



会場の様子



第1部 模擬授業の様子

キャリア支援センターよりお知らせ 就職支援パートナーシップ制度を開始しました

全国各地の10大学との協定締結により、就職
支援を拡充します！

都留文科大学は、全国各地で就職を希望する学
生の就職活動支援を強化するため、Uターン・I
ターン就職希望地域の大学で求人情報閲覧等が可
能となる「就職支援パートナーシップ制度」を、
公立大学を中心とする各地の10大学と協定締結
しました。

この制度により、学生は、就職を希望する地域
の本制度参加10大学(以下「パートナー大学」)で、
下記のような内容の支援が受けられるようになります。

1 パートナー大学での支援内容

(1) 就職支援

大学に提出された地元企業の求人や会社説明会
等の情報提供、及び就職相談の実施

(2) 就職関連資料の閲覧

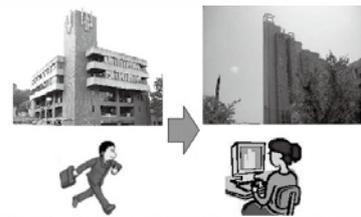
就職支援部門の書籍等の利用開放

(3) 就職ラウンジの利用

インターネットや書類作成時のデスクの利用開放

2 制度のメリット

学生は、在
学している大
学以外のパー
トナー大学で
も就職活動の
支援を受けら
れるようにな
ります。



本学の学生がパートナー大学
(全国10校)の就職支援を利用できます。

具体的には、インターネットでは得られない地
元優良企業の求人等、その地域ならではの情報が
得られたり、アドバイスを受けられたりするよう
になります。

全国10大学のパートナー大学間の相互協力・連
携により、企業とのマッチングの機会を広げること
ができ、より質の高い就職活動を支援できます。

3 協定締結大学(順不同)

横浜市立大学(幹事校)、北九州市立大学、静岡
県立大学、兵庫県立大学、広島市立大学、大阪市
立大学、福井県立大学、信州大学、都留文科大学、
国際教養大学、名古屋市立大学

文大だより

学生サークル Trinity 主催

第 6 回 つる白熱教室 花房孟胤氏講演会

5月23日、「つる白熱教室・花房孟胤氏講演会 予備校なんぶっ潰そうぜ」を行いました。

我々 Trinity は、全国でも有数の教員養成学校である都留文科大学として、日本の教育の在り方について改めて考えるべく、花房孟胤氏をお招きする運びとなりました。講演会には、本校学生を初めとして、地元の高校生、地域の方など多数お越しいただきました。

花房孟胤氏は、大学受験における日本の地理的・経済的格差をなくすべく、ネット上の完全無料予備校「manavee (マナビー)」を立ち上げました。manavee は、現在 8000 を超える授業があり、毎月数百本もの新作授業がアップされています。利用生徒は約 20 万人にも達しています。

花房氏はネット上の無料予備校 manavee を立ち上げるにあ

たって、どのような講師を提供すべきか考えました。一般的に多額の費用がかかる受験においては、お金を持っている親がターゲットであるとも考えられます。ここで、親は、信頼・実績・経験豊富なカリスマ講師を求めます。しかし一方で、勉強するのは学生本人です。彼ら受験生にとって、よい先生とはなんだろうか。教え方のうまい先生、雑談が面白い先生…、どの受験生に聞いてもその意見は異なっていました。こうして、彼はひとつの結論にたどり着いた。

「自分にとって好きな先生の授業が一番良い授業なんだ」

manavee では、これを満たすべく、数百人もの先生の中から自分のお気に入りの先生が見つけれられるような仕組みになっています。



講演の様子

今回の講演会で、花房氏は、教育のことだけにとどまらず、我々若者に対して大きなメッセージを残してくれたように思います。彼は以下のように言いました。

「つねに社会の基準に合わせていく。それでは相手本位だ。『俺がルールだ』と、思ってしまったもいい。自分がルールを作って社会に説得できたらそれが新しいルールとなるのだから。今当たり前とされていることを単に受け入れてしまうのではなく既存のことに対して、『本当にこれでいいのか?』と常に考え、行動することが大切だ。自分の場合、予備校が高いなと思った。だから、manavee を立ち上げた。」

『あなたは何をぶっ潰しますか?』

彼は、自分の著書のタイトルになぞり、我々にそう問いかけた。

最後になりましたが、今回講演をしてくださった花房氏、並びにご協力いただいた地域の皆様、そして大学の皆様に深く御礼申し上げます。

(実行委員長 英文学科 2 年
森田真澄)

講師紹介



花房 孟胤
(はなふさ・たけつぐ) 24 歳

2008年東京大学・文学部に入学。「大都市圏の裕福な子ほど専門的な受験指導を受けている。受験における地理的、経済的な格差をなくしたい」との思いから、誰でも無料で受験勉強ができるWEBサイト「manavee」を開発。数多くのメディアにも取り上げられた。

文大だより

都留文科大学ラッピングバスの出発式を開催しました。

4月28日（月）にラッピングバスの出発式を本部棟前広場で開催しました。

式典では大谷本学理事長、福田同学長、堀内光一郎富士急行社長、堀内富久都留市長から挨拶・ご祝辞をいただき、多くの来賓や学生が集まる中、モダンダンスサークルによるダンスパフォーマンスで会場は大いに盛り上がりました。テープカットの後、関係者を乗せたラッピングバスは春の穏やかな陽光に包まれた都留市内を30分ほど巡回し、式典は盛況の内に終了となりました。

ラッピングバスについて

「日本一富士山に近い公立大学」である本学の名称を、首都圏および富士山を訪れる方々に広くアピールするため、富士五湖と東京をつなぐ富士急行の高速バスにラッピングを行いました。

山梨県内より東京方面への高速路線バスにおける、大学名が入ったラッピングバスの運行は、このバスが初めてになります。

バスのデザインは、豊かな自然と交通の利便性を併せ持つ本学のビジュアルイメージを、「世界文化遺産の富士山」と本学のカラーである清涼なブルーで表現いたしました。

走行路線

主として新宿―富士五湖間の高速バス路線、その他の状況により富士山五合目（夏季）、東京駅、名古屋駅、羽田空港方面への走行が予定されております。

イベント告知

車体の左右と後部3か所にある広告スペースで、オープンキャンパスなどのイベント告知を行います。7月19日（土）までは、夏季オープンキャンパス仕様で走行しています。



ラッピングバス（本部棟広場前）



式典の様子



左から都留市長、理事長、学長、富士急行社長、学生代表によるテープカット



オープンキャンパス仕様

文大だより

名誉教授の称号授与

平成 25 年度をもって定年退職された次の 3 名の教員に対し、これまでの研究活動並びに学内活動などの功績を称え、名誉教授の称号を授与いたしました。



称号授与の様子

稲垣孝博氏（英文学科教授、37 年の長きに渡り本学で研究・教育に取り組み、特にドイツ文学の受容について多くの優れた論文を発表。また大学後援会並びに外国語教育研究センターの設立に尽力し、英文学科主任、教務委員長、外国語教育研究センター長などを歴任。）

森 博俊氏（初等教育学科教授、33 年の長きに渡り本学で研究・教育に取り組み、特に障害児教育の分野において多岐にわたる業績をあげ貢献。教育組織審議委員、地域交流研究センター長、国際交流・留学委

員、大学院文学研究科副委員長などを歴任。）

畑 潤氏（社会学科教授、25 年間に渡り本学で研究・教育に取り組み、社会教育・生涯学習の分野において多数の優れた著書を発表。また社会学科の発展に尽力する一方、教務委員、入試管理委員、企画委員、予算委員、駐車場問題検討委員長、一号館前広場検討委員長などを歴任。また地域交流センター委員として同センターの「通信」編集長を長く務めた。）

優れた多くの学生を輩出するなど、本学発展のため多大な貢献を賜り、誠に有難うございました。

人事異動

平成 26 年 4 月 1 日付けの人事異動は次のとおりです。
氏名の前が移動先、() 内は前職です。

役員就任

学長 福田誠治
副学長 新保祐司
副学長 阿毛久芳
事務局長 重原達也

採用

初等教育学科講師 堤 英俊
国文学科教授 加藤浩司
国文学科講師 菊池有希
英文学科准教授 加藤めぐみ
教職支援センター講師 上原明子
教職支援センター特任教授 金山光一
教職支援センター特任講師 亀田孝夫

退職

稲垣 孝博（英文学科教授）
森 博俊（初等教育学科教授）
畑 潤（社会学科教授）
大森 一輝（比較文化学科教授）
三枝美保子（学生課主幹）
佐藤 雅子（学生課主幹）

転入

学生課参事 菊地 保（基盤整備課長）

総務課主幹 藤江耕正（行政管理課主幹）
学生課主幹 田中正樹（健康推進課副主幹）
学生課副主幹 小宮山みゆき（市民生活課副主幹）
総務課主査 小澤初美（市民生活課主査）
総務課主査 相川 聖（財務経営課主査）
総務課主事 堀内成寿（政策形成課主事・採用）
総務課主事 程原祥子（政策形成課主事・採用）

転出

行政管理課長 小林正人（学生課長）
行政管理課主幹 高山竜一（総務課副主幹）
福祉課主幹 市川元子（総務課副主幹）

昇任

初等教育学科准教授 平和香子（初等教育学科講師）
国文学科教授 古川裕佳（国文学科准教授）
比較文化学科教授 山本芳美（比較文化学科准教授）
情報センター准教授 日向良和（情報センター講師）
総務課長 谷内治彦（総務課主幹）
総務課副主幹 鬢櫛美咲（総務課主査）
総務課副主幹 程原誠二（総務課主査）

お詫びと訂正

○都留文科大学報 124 号 P40 「ジェンダー研究プログラム講演会」講師の写真が誤っておりました。本山央子先生並びに関係各位に多大なるご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

○都留文科大学報 124 号に掲載した「卒業論文・研究論文・修士論文一覧」より次の部分が抜けておりましたので、お詫びして訂正いたします。

比較文化学科

重富 恵子ゼミ

遠藤 量成 派遣労働者問題にみる「生きづらさ」
福田 葉月 農家の存続と市田柿ブランド化
—長野県下伊那郡高森町を事例に—

丹伊田加奈
宮澤 理佳

郡山市の地域環境における米作の重要性
教育に対する認識の問い直し
—ケニアの教育体制を事例に—

編集後記

編集後記にかえて

田中里美

社会学科環境・コミュニティ専攻の1年生は、入学後さっそくフィールドに出る。必修科目「フィールド体験」で、山、里、まちの3つのコースを順に巡るのである。

私が担当しているまちコースでは、都留市内3か所を訪れる。まず、ミュージアム都留で、郷土史家の方、学芸員の方から、都留の歴史を話して頂く。後幕等の展示を拝見した後、城山へ移動。往時の勝山城の姿を想像しつつ、山に囲まれた狭い平地に立ち並ぶ家々、大学を眺望する。2週目は、西涼寺の座敷をお借りし、商店街振興会の方、住職、商店街でのまちづくりに参加させて頂いている環・コミ上級生達の話聞く。次に三町商店街に移動し、数人のグルー

プに分かれてお店の方にお話しを伺う。翌週は、1号館での菓子等販売で文大生におなじみの、就労支援施設みとおしを訪ねる。生活上特別な必要のある人たちと地域との関わりについて、施設長さんからお話を伺った後は、障害のある方々と一緒に踊ったり、おしゃべりしたりと交流をはかる。4週目は大学で、ふりかえりとまとめを行う。現場で見聞きし、感じたことを話し合いながら、それぞれの場所の現状と課題を明らかにする。さらに、自らが学生として、それぞれの場にどのようにかわり、何が出来るかを考え、まとめを作成する。これをお礼状とともに各所でお世話になった方にお送りする。

まちコースでは、コミュニティについての学びを得るため、人々の生活の場に伺う。ふだんと勝手の違う場で、どうふるまえばいいかわからず、戸惑う学生もいる。そんな学生達に、現場の皆さんは、気さくに話しかけて下さる。フィールド体験をきっかけに現場の一員として活動を始め、これをもとに卒論を書く者も生まれる。

以上、編集後記の場をお借りして、私が2014年前期、社会学科環・コミ専攻で担当している授業の様子を紹介させて頂きました。学生の学びの姿の記録まで。



三町商店街にて

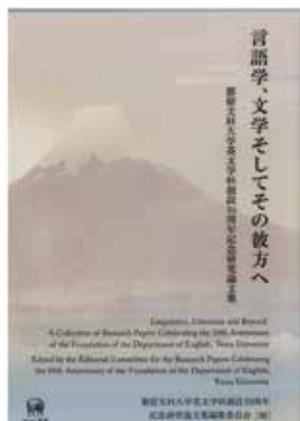
本 ぶんだいでい堂



永平の風
道元の生涯

大谷哲夫／著
2001年10月
文芸社 1,800円＋税

◇おおたに てつお 理事長



言語学、文学そしてその彼方へ
—都留文科大学英文学科創設50周年記念研究論文集—

都留文科大学英文学科創設
50周年記念研究論文集編集
委員会／編
2014年3月
ひつじ書房 20,000円＋税



学力と学校を問い直す
講座 教育実践と教育学の再生 第3巻

教育科学研究会／編
(編集委員 荒井嘉夫・田中昌弥・
本田伊克・宮田雅己・山田哲也)
2014年4月
かもがわ出版 2,800円＋税

◇たなか よしや 初等教育学科教授